836
209
3

夢草年録

鬼報録並外録

九冊

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

鬼報録第七輯

戊辰三月至六月東西及甲斐事

目録

一 江戸紀事 四月朔日至十五日
二 元岡千吉寄其家翁書 四月十三日
三 同上筆記
四 上州野州之戦争之所 西
五 仙台ニ説
六 野洲山宿合戦記進状 四月十八日九時認
七 同上十九日認状写
八 同日書状写
九 高崎藩ヶ抗瀬下色後ニ所当返 四月十九日
十 四月廿七日出羽本神尾壱三郎ヶ祝文ニ付書
十一 飯山侯謹慎ニ不及旨御沙汰
十二 紅城ニ於ヶ沙汰ニ付書 閏四月四日
十三 在江戸仙台宮重窩其父書物 閏四月四日
十四 又 閏四月五日
十五 当年中納言様ヶ為ノ名写 五月三日
十六 水野日記ヶ写 新
十七 江府記事 自三月至閏四月十一日
十八 在京久保英東書物 戊辰四月廿九日

大正 9. 5. 27 購求

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

九 閏月十八日英車書状

二一 在京諸藩及ビ夷士、徳川家裁決意見ヲ問

三二 大垣侯御処置ノ為帰国トノ沙汰

三三 閏月四日於行在所被作出四通

三四 飯島二水書附小諸田達并童謡

三五 北方同盟諸侯兵員 吉作

三六 **川柳句**

三七 長州奇兵隊三條建白 吉作

三八 小諸辺童謡

三九 俚俗敬人詩

四〇 御褒賞御書附 二月七日

四一 高田藩へ御達 御不審有童役弥急ニ承

四二 在京久雄書附 鄭重被 長岡藩判事

四三 諸国神社神体保存御廃止

四四 貨幣通用心得

四五 **銀立被銀停止**

四六 金穀御用達ニ

四七 豊国廟再興

四八 徳川家駿府城主七十名

四九 **在甲府綿毋貝氏書翰** 閏月十五日

五〇 閏月十九日着横井久田話

五一 同上ニ付物議府参謀公城代水野羽州、連書一通

五二 在峡候田賢 五月二日生

五三 高田藩へ御達 御不審有童役弥急ニ承

五四 在京久雄書附 鄭重被 長岡藩判事

五五 諸国神社神体保存御廃止

五六 貨幣通用心得

五七 **銀立被銀停止**

五八 金穀御用達ニ

五九 豊国廟再興

六〇 徳川家駿府城主七十名

六一 **在甲府綿毋貝氏書翰** 閏月十五日

六二 閏月十九日着横井久田話

六三 同上ニ付物議府参謀公城代水野羽州、連書一通

六四 在峡候田賢 五月二日生

高野藏書

七 閏月十八日英車書状

二一 在京諸藩及ビ夷士、徳川家裁決意見ヲ問

三二 大垣侯御処置ノ為帰国トノ沙汰

三三 閏月四日於行在所被作出四通

三四 飯島二水書附小諸田達并童謡

三五 北方同盟諸侯兵員 吉作

三六 **川柳句**

三七 長州奇兵隊三條建白 吉作

三八 小諸辺童謡

三九 俚俗敬人詩

四〇 御褒賞御書附 二月七日

四一 高田藩へ御達 御不審有童役弥急ニ承

四二 在京久雄書附 鄭重被 長岡藩判事

四三 諸国神社神体保存御廃止

四四 貨幣通用心得

四五 **銀立被銀停止**

四六 金穀御用達ニ

四七 豊国廟再興

四八 徳川家駿府城主七十名

四九 **在甲府綿毋貝氏書翰** 閏月十五日

五〇 閏月十九日着横井久田話

五一 同上ニ付物議府参謀公城代水野羽州、連書一通

五二 在峡候田賢 五月二日生

五三 徳川家駿府城主七十名

五四 甲府脱走士姓名

五五 甲州、賊徒入込石澤ら代官ら城代へ注進写

五六 甲州、賊徒入込石澤ら代官ら城代へ注進写

五七 閏月十九日着横井久田話

五八 同上ニ付物議府参謀公城代水野羽州、連書一通

五九 同上ニ付物議府参謀公城代水野羽州、連書一通

六〇 同上横澤伊右衛門ヶ浄進脱走行装員数ホ

六一 在峡候田賢 五月二日生

六二 甲府出兵

六三 甲府出兵

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

江戸

上野紙

(六四) 在峡海沼龍介書 十月二日

(六五) 在江戸横田千筒 十月八日

(六六) 安中病葛公来状 上野攻城ノ事

(六七) 上田糸師ノ申条状 口上

(六八) 在甲小幡金一郎持飯当一小塚生兵御達書 十月十七日 十八日ノ誤歟

(六九) 武田浪士中ヘ達書 三通

(七〇) 十月九日御達章甲府勤番徳川臣去留決定申出

(七一) 甲斐国三郡民願書 閏四月

(七二) 十月 十四日ヵ 十八日迄 紀聞

(七三) 在江戸水芳十月十七日廿書状

(七四) 十月九日朝南部坂邸東塀崩落一条

(七五) 江戸時事記 十月十八日

(七六) 在江戸河口多喜人寄沈村猪三郎書 上野紙

(七七) 在江戸某氏書状 口

(七八) 紀聞 四

(七九) 在江戸代田伴七書 十月十八日

(八〇) 在江戸横田数馬上杉政丈能衛士書 十月廿二日

(八一) 十月廿四日江城御沙汰書写 玉一氏ヘ達 十月廿六日

(八二) 水野羽州形跡取紀 京口ヨリ

(八三) 四條ヲ将甲斐鎮撫

(八四) 在江戸河多寄沈猪書 十月廿六日

(八五) 紀聞

(八六) 在江戸横田某書状抄 御沙汰書写ホニ通

(八七) 小田原問罪沼津藩甲城代免ル小田原江ノ郎収公

(八八) 小田原問罪使差向心得達

(八九) 十二小田原問罪使差向心得達

(九〇) 在峡依謙生六月十日書

(九一) 氷野屋甲城代免 飯島達

(九二) 六月廿四至七月四甲斐ヘ達

(九三) 十月下旬江戸物価

(九四) 紀聞

(九五) 成勘市川代官処分

(九六) 大塩藩ヘ金一万五千両ヲ賜

(九七) 成勘附属同心ヲ甲斐服

(九八) 同人ヘ鎮撫府ヨリ次第ヲ以テ帰府

(九九) 甲斐在衛諸藩兵員

(一〇〇) 在峡窪田ヨリ家事富家着書 六月廿八日

(一〇一) 関口守衛上ノ原関撃衛者配ヲ以テ ヲ 七月十七日

(一〇二) 在甲石木鏡渡書 八月十九日

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

今四月朔日東海道副御宿舘府　柳原侍従殿甲府ゟ見廻りかつ〻三月晦日夜板橋宿
御旅宿ゟ江戸ゟ通行朔日夜久留米上屋敷ゟ旅宿ハゝ過ゟ着前後御警
衛濱松侍従人數上下二百人余三小隊一組三拾六人組ゟ馬廻り濱松人數白地
菊ゟ紋ゟ旗二本上ゟ羽鶴丸ゟ紋ゟ旗一本四時頃同所ゟ池上本門寺二ゟ義表ゟ門ゟ紫鶴丸ゟ紋幕ヲ打東海道副總
督府旅宿と云巾尺丈五尺程之ヲ掛ル

今四月四日　勅使ゟ入城東海道御宿舘高倉侍従殿并柳原侍従殿四ゟ半頃虎
門ゟ通行ゟ警衛者岡崎濱松両家人數九ゟ割ゟ飯り虎門ゟ通行今四月十日ゟ城ゟ引渡
ス旨請取ゟ人數六ゟ時二十頃ゟ上屋敷下通大村人數二小隊三組三十人ヲ赤地菊ゟ紋
御旗一本御旗巾八尺程丈六尺程ニゟ子モ十七竿一丈程至テ見悪シサ過

一今四月八日夜元津和野上屋敷辻番ニ前縊死人男五十六、七ト見ル藍方ノ木綿給黒木綿九羽織ヲ着スキダナラヒキ下帯ヲ引解下リ居ル然ル処此屋敷公義持故早速ニ元付ニ不相成九日ノ夜何者カ下ヘ引ヲロシ羽織着物ヲ剥取絹切々ノ看板ヲ着セ置十日昼頃元付ニ相成

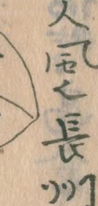
今四月十三日夜備前家来両人尾州侯裏馬場辺ニテ何者共ト(了解)名乗リ留一人ヲ残シテ追撃尾州裏門ニテ切殺ス一太刀ニテ右ノ肩ヲ左ノアバラ下迄切如何ニモ見事ニテ切ト申

今四月西日大御所様御薨去江戸御着芝山内真葉院御旅館御警衛ヲ阿州福岡尾州ヲ初メニテ駿遠三州吉田侍従宮軍総心得方下名ニ御警衛三州吉田侍従宮軍総心得方下云長特多見立ニ而此度ノ大役ヲ昨年中上京ニ仰付ラレ陪臣之身ニテ上京ニ仰付ラレ候ヲ上ニ而ハ名ヲ江戸御上ニ而ハ名ヲ上ニ而此ヶ条ト申事ニ後ノ警衛人数上下一万余

長州人数六小隊三十二人組備前二小隊組同新大銃一挺小隊大銃一挺小隊一組五十人ツヽ備前六小隊三十六人組騎馬六人菊ノ紋ノ旗一本ツヽ前同断尾州拾二小隊壱組三拾人ツヽ大銃三挺騎馬三人ノ旗前同新一本ツヽ

きれ筒ヲろうそく袋笠ノ物多ク異人ニ似セ長州ヲ立流組服色白ノ丸ノ内笠ノ物

役人ヲ黒ヤリ図ノ如キ印ヲ手ニ持居



丈中一尺弐寸位棒二尺五寸位薩州ハ赤黒尾州ハ小袴ニ附ケ皆ダモトアル木綿著物皆陣羽織稀ニ鎧下筒ろうそく着ニタルモアル此日城引渡ノ礼ニ法ヒケヲヒラゴダツキ見クルシキヨシニテ前ノ諸取済ニテ九ツ半頃夫々ノ人数引取ニナル

今十一日ヨリ旗本ノ家人筒ろうそく袋笠ノ物ニ陣羽織袴ニテ騎馬ニテ不残

馬具ヲナル清水一橋ヘ勤仕ス

今四月九日ヨリ屋敷辻番相ヤム諸家辻番二月下旬ヨリ追々相止ム

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

ニ風呂敷ノ如ク赤地錦日月御旗二流巾三尺程丈一丈五尺程日月ニ金銀外ニ菊御
紋御旗三本菊萬地綿菊御紋御旗一本是ハ宮御旗ト見エ其外ニ家々旗ニヤ又
ハ馬印ヲ立

高倉殿柳原殿三田久留米屋敷御旅館

(二)元冦千吉寄其家翁書　四月廿三日

鴻臺辺ニ北国勢三万人程屯住ニ付六日大村肥後伊州三藩出陣ス座ハ上野ト彰義隊
陣取居ル一日萬殿ノ論夜ニ成ル時之処引渡不申御陣営瓦解ト云ヒ先ヲ争ヒ
ハ手負ヲ舁ヲ移ヲ引ヲ多ク手負死者ノ跡大ニ紛ル既ニ彰義ノ方ニ又ニ日ノ夜
程山下金杉辺ニ千余人埋伏居ル実事ニ官軍ヲ撃ント仕ル平塚宿
宮様ノ御ニ是ハ人数廿人連印ノ屋下ニ篝ヲ焚白状ニ署ト日夜ノ籠館ニ
ヲ乞ヒ只三人一人ヲ千留一人ヲ逃去篝ヲ焚ヲ捕三人共坊ヲト和成中ノ名ニ子業
追ヲ泊ヲ大騒ニ和成ヲ多ク山ノ手辺ヲ深山行ノ不知士諸ニ死仕
死ノ後ノ屋ヲ焼一日宮様西城ニ入和成中人近ノ唐崎福岡共ニ鎮李
櫻田辺大名ハ居向取潰大騒動ニ日モ不ラ方知ラ先ニ帯刀ニ限
ラ一ツレ下ル以上　四月廿三日

(三)四日上筆記

今四月廿日大総督宮西城ヘ入御

同日下野辺不穏ノ有大村伊丹人数擇出

同十五六日ヨリ追ニ見付ヘ官軍小隊持和成士ヲ出入共数重相改田安、
雑子橋竹橋常盤橋半蔵馬場先ヲト切

同廿三日千住口ヘ肥後人探出

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

四月十日頃ヨリ御堀ニ鈎シナス事始ム半蔵門外ノ鉄ノ御門ヨリ和田倉辺ニテ西丸外堀中ノ溜池桜田弁慶橋ヨリ山城ノ岸辺甚シク鈎取申ス尾州侯ノ人数其外官軍多ク鈎ヲ致ス弁慶橋ヨリ鈎見物ノ朝ヨリ夕方迄群集ニテナス

尾州侯ノ人数イカニモ農兵ノ様子ニテ皆筒袖ニ股引ニ草鞋ニテ鉄砲ヲ多ク持チ或ハ槍ヲ持チ或ハ抜身ヲ提ケ或ハ鞘ヲ横ニ帯ビ或ハ小脇ニ抱ヘ或ハ鞘ヲ後ニ引摺リ或ハ鞘ヲ前ニ突出シ或ハ鞘ヲ取リ或ハ鞘ヲ捨テ或ハ鞘ヲ踏ミ或ハ鞘ヲ蹴ル等種々ノ体ニテ桜田太左衛門ノ前ニ至リ(キ)ト云ヒ申付或ハ警衛ニ来リシ者ノ如ク

内外新報ニテ有之海道筋彰義隊敗走ニテ五拾人申合其夜忍入
ル三人ハ分手ニ人ハ逃去ル人ハ縛ラレ竹之先ニサシ有ル
二月中旬頃官軍ヲ四谷内近在ヘ高百石ニ付金三両白米ヲ俵
御軍用ニ付差出ス事ニ申渡ス処又今四月十八日高百石ニ付金拾両白米拾表

立ル府官軍大敗軍退行所ヲ打取難波ヲ揚ル 東照大權現ト云旗押立人數引取并取
首四ツ直ニ使節ヲ以 東照宮ヘ奉伝

一 仙臺宰侯御実子宇和島侯ノ我 君上御筆ノ下向四月九日下野佐野宿ニ二日半
ヽ逗留ノ通和戦ノ為ノ通行不和戦ノ為ノ通行ノ差別ナシ江戸ヨリ戦夫ノ蒸気船ニ仙臺戦
一 今津ヨリ大體隊一隊二百八十人浪伏見戦ニ討死ノ後家族親類ノ類
一 九條殿嵯峨殿将軍ノ由先達新潟ヘ上陸夫ノ仙臺ヘ行今以使ヒヽ者ノ由

右ノ内ノ四ヽ各島長左ノ門探索ノ為記ス

五

一 馬廣木探索説仙臺ヽ惜落ノ今尚不振出兵ヽ命ヲ奉シ二三隊ヽ人數ノ七ヽヽ
銘々ノ多額ノ要用有ノ物ヲ今津ヲ悔ノ者ノ東北後ノ上記ヽ説
一 ノ徴

六 野州小山宿合戦浪進状四月十八日九時認

十八日官軍古河表ヽ出張ノ積ノ如模様ヽ碇泊昼飯出ヽ相成正風隊ノ方ヽ官軍向ヽ田宿昼飯ノ古河表止宿ヽ見込
ノ多ノ由表ヽ相待ノ如模様ヽ諸多込小山宿ヽ押寄官軍昼飯ヲ遣ヒ
待伏ヽ父ノ出ノ如直ヽ追ヲ小山宿ヽ引返ヽ諸道ヽテ入レノ出合討合ノ義
官軍先鋒千生懸ヲ以去其後彦根勢ノ赤団新三番ヲ以笠間勢大砲
ヲ以ノ如煙ノ中ヲ潜ノ元ノ如込ノ付ノ
稗多町ヽ迄込ノ付稗多家ヽ打計焼ヲ込ノ由官軍勢木津ノ林山ノ
取一時計ノテ付ノ由笠間勢大将ノ千弐百名ノ為ノ由ノ計ノ七
人千外弐人古七人ノ為ノ十七日ヲ 東照宮様ノ孫日ノ明ノ廿四
様現様ノ侍ノトノ事ノ弥参ヲ千ノ大砲七挺ノ捕ノ大平山ヽ

引揚ル

十七日朝山川通ヲ方ヘ歩兵組六人計リ繰出シ遠近ヲ歩行シ又ハ
六人計リ繰ル八九十人計リ義名小山宿町ヲ陽ヲ組稲葉ヲ方ヨリ押出シ名
稲荷天王ノ辺ヨリ大砲千挺ニ士生先陣ヲ押来ル歩兵組ヲ仲町ヘ近寄
下ヲ本ヲ降ル迄ヲ待受シ本戸ヲヲ柘ヲ面ヲ方ヨリ大砲ヲ
ヲテ名横ヲ引ハ千挺ヲ陣ヲ名ヲ又ヲ引揚ヲ筒ヲ吹
ヲテ名横ヲ引千挺ヲ名ヲ陣ヲ名ヲ
変下町ヲ方ヨリ引下ヲ名宣軍勝ヲ勢ヒ強ク大砲ヲヲ仲町ヨリ詰寄
名ヲ法ヲ通ヲ方ヘ九三四百人押出シテ外横町ヲ
ヘ押包ヲ討ヲ百大敗義人家ヨリ迎ヘ東町ヲ
下山ヨリ引揚ヲ又ヲ本陣村ヲ村ヨリ引揚ヲ
ヲ計二ヲ頃ヲ勝負ヲ
計ヲ敗ヲ東照大権現ヲ御中旗ヲ神ヲ
歩兵組其時小山宮ヨリ援ヘ人数九千或ハ人大将仲ヲ追討ヲ神ヘ小山宿四方ヲ
同メヲセ先今ノ八神君様ノ緑日今日ヲ時限討死ヲ覚悟ヲ極メ大砲ヲ申ヲ計ヲ
名ヲ法ヲ通ヲ方ヘ東照大権現ヲ御守護ヲ超ヲ神ヲ
ヲ名ヲ法ヲ通ヲ方ヘ待ヲ勝ヲ利ヲ成人ヲ我心中ヲ神助

七 同所合戦 ㊂四月十九日 御状写

十七日小山宿朝合戦ノ時過終ニ官方勝利 弥 十七日ノ
所ニ笠間勢加ル処ニ官方ノ多キヲ以合ノ和成本陣ヲ
引揚ル処 追討ニ成ル 皆敵ヲ中ニ生捕軍evidenceヲ
義隊ヨリ寄来ル外ニ今村ニ行延有ヲ又ニ隊ニ行和ヲ
土蔵ヲ見張ノ為ニ繋ヲ申ニ宿早朝ニ行ヲ結城ノ官方
人数ノ館村ヲ敵ト交武井義ヲ為宿ヲ十七ノ朝ニ
迫ニ隊ヨリ吾里ヘ引ヲ市ニ積ヲ死又ヲ鉄砲ヲ手ヲ
五六人地勢ニ於ニ九人ヲ和成ヨリ大砲ニ而其外捕ヨリ
ニ官残有ヲ美ヒ大将ヲ一ヲ近参ヲ死皆本陣ヘ近込命ヲ助リ
而本陣家ノ内ヨリ此ノ朝ノ敗軍下館ニ人数早ニ着ヨリ如ク候

おゝもしの如く第ニ子速探生ノ事ハ裏ニ表ヨリ報成帰後ヲ討ヲ報敵ヒノ様子
未実ニ相分ヲ不申東ヲ方ヲ一昨日ヲ通過ヲ十六菓ヲ御役所ヲ先物ヲ本陳
様ヲ宇都宮ヲ探出ヲ節ハ一番先陣ヲ
門ノ近場ニて集込ト時ヲ勢ひヲ声ヲ此ノ事鬼神ニも有程ヲ二ノ様子ヲ和ヲ事
事ニ而ハヲ有ヲ如ク日近事ニ方ニて宇都宮ヲ大通ヲ迄ヲ
ヒヲ出ヲ方ヲ一ヲ所ヲ石場ヲ五ヲ組出ヲ
ヲ所ト右場ニ而ヲ事ト外ニ賀ヲ皆ヲ人ヲ和ヲ
勿論勢ヲ九ノ一ヲ人ニ而ハヲ一ヲ看ヲ中ヲ
物ヲ秋ヲ一ヲ隊ヲ実ニ如ヲ来ヲ事ニ方ニ
此ヲ一所ヲ馬ヲ事ニ呉ヲ子ニ方ニ
ニ方ヲ一ヲ人ヲ皆ヲ不ヲ処ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

(九) 高須家の枝御家老衆五名道

嵯ヶ野 笠岡八万石 牧野越中守

土生三万石 鳥羽五万石 寺

五ノ根 古河八万石 土井大炊頭

下総 上ノ藤御事去ル十一日是迄御有形ニ所

相成水戸御隠居初 御付御供の人数千七百人ニ而

御旗本内家人を藏前より前後ニ警衛致し下総法引取ニ而

而人ニよりて異なる事下後国松戸小金井流山

野田水戸街道関宿鹿嶋道迄船ニ引取大間小間旗持参追々関宿

より方ニ籠城無巻相成何まし内訳相成ニ松平江戸表ニ而

(八) 四月十九日朝当状写

小山ニ而支ヲ討ニ付ニ而勝利ニ候ニ付ニ而

宇都宮ニ而ハ敵味方共ニ手強ニ而

(九) 高須家の枝御家老衆五名道

嵯ヶ野 笠岡八万石 牧野越中守

土生三万石 鳥羽五万石 寺

五ノ根 古河八万石 土井大炊頭

下総 上ノ藤御事去ル十一日是迄御有形ニ所

相成水戸御隠居初 御付御供の人数千七百人ニ而

御旗本内家人を藏前より前後ニ警衛致し下総法引取ニ而

而人ニよりて異なる事下後国松戸小金井流山

野田水戸街道関宿鹿嶋道迄船ニ引取大間小間旗持参追々関宿

より方ニ籠城無巻相成何まし内訳相成ニ松平江戸表ニ而

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

(九) 高

笠間八万石　牧野越中守
譜代
十二生三万石　鳥居播州守
古河八万石　土井大炊頭
下総
一上様御事去ル十一日昼過御着城ニ
水戸
相成水戸へ御隠居被仰付御代替御祝
詞として御名代
御親類
御本家人を藏前より訳十騎ばかり
両人ずつ騎馬にて警固として
野田水戸街道関宿鹿嶋道迄船にて
引取大関小笥旗持参追々関宿
より銚子城へ乗掛合相成候ハ江戸表
より
御名代

(八) 四月十九日朝当地
小山
より支度
祝ヵ
利根川
渡船
討手
大軍
押寄
候由
注進
有之
候ニ
付
御
名代
御
出
馬
御
延
引
に
相
成
候
由

小山 野寺川 鄰

富田 小上
大平山 日安藤 鄰

杵木 日上

ら降伏し、桐成ト武器を先ニ出ス。当時立迎ひの官兵ら船積ニ而先達
る中ら積出し、桐ト城ら引取ニ而
去ん十六日の小山表迄ら 当隊 忰風隊 為人行様も 結城通ニ大塚村ら 大合戦ニ 相成
官軍方笠間様 館林様 鳥井様 壬生様 戸田様の人数ら 敵官軍方大敗軍死人多分
立ら 敵大将 夜ノ 勝 ハ 十六日小池ら 相成ヤト 猶又 沼田 三兵 撤
隊小山表ト 手分ニ 相成又ニ先ニ 日光 ら 敵ら 小山町江戸入口ニ 合戦 相始ら 味方 官軍
大敗軍ら笠間様の 家老 討死 ら 地利不案内ら方ニ 鳥井様 ら人数ニ 隨ひ
勝利ニ 而 三兵隊 相勇ら 日光ニ 而 五十 東照宮ニ 而 百五十
五ニ 而 大勝利ニ 相成 勇士十八日追討ニ
昨日光山ら 備へ 為ニ 引取ニ 敵又 昨十八日 敵勢正気隊 杤木ニ 来ル 千三百人
沼ら 桐成ヤト 其外十六日ニ 壬生ニ 合戦 ニ 而 味方ニ 討死ニ

一 水戸街道ら関東筋ニ 東照大権現ら 相印旗 差立 次ニ 紺地ニ 令ニ 字
ら旗相立今津勢加ら 是ら 右ニ 宇津宮古河ら江戸官軍
方ニ早打ニ 十八日晩 弐千人古河泊り 壱千人ニ 佐野天明泊り 此後ニ日
ニ大合戦ニ 而ニ 先ニ 結城 落城其外下野ニ 手ニ 入ニ 成ニ
駕入ニ 成ニ

結城様 大砲隊ニ 官軍方 差加
徳川付

鳥居様 大砲隊徳川付ニ 令ニ 右ニ 様ニ 実ニ 二大砲ニ 実ニ
大砲隊ハ 今津ニ 而 敵ニ 右ニ 様ニ

関東筋ニ 大将ニ 成ニ

関東筋ニ 官兵ニ 敗軍ニ 人ニ 先ニ 壬生ニ 而 敵ニ 降参ニ 而 討死ニ 覚悟 誠ニ 義
士ニ 成ニ 大名勢 何万人ニ 及ニ 候ニ 恐ニ 入ニ 候ニ
館林様ニ 一昨暁迄三番隊迄引取ニ 手成中ニ

四月十九日

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一十六日中田家ヲ合戦大将取巻ヲ破リ家従ヲ数死死人多クヲ負ヒ
一十七日同ク多賀ノ城ヲ攻ル時ニ落城四家人数二千八百人余徳川方ヘ降ヲ始ヨリ
義隊勇義隊等部上杉ヲ浪士ヲ加ヘ於合二千人ヲ以午ノ刻ヨリ戦ヒ初ル風
雨烈敷吉宗方ヘ向ヒ風ヲ始メヘール数千本ヲ二百人計ヲ列ヲ矢ヲ射ヲ一番ヲ先陣ヲ
而ヲ長柄大身鎗ヲ風雨ヲ後ヲシテ多壹ヲ先陣藤堂仁右衛門ヲ陣ヲ又ヲ込大敗北
如ク多ノ一番ヲ打死ス二番ヲ多ノ諸共ニ打死二陣藤堂仁右衛門ヲ陣ヲ又ヲ込大敗北
大将仁右ノ馬上ヲ迯ルヲ水府浪士内田村右衛門ト申者矢先ヲ多命次ヲ和シ
義別勢鳥海重三郎ヲ水倉名五右ノ内ヲ九百人計一度ニ和ヲ徳川
家勢弥ヲ小高ヲ矢ヲ列ヲ矢ヲ射ヲ多ノ雑兵ヲ

十四月廿七日出陣旗本神尾多ノ陣ヲ突入ヲ多

先般賊徒其城下ニ止宿之砌自分
ニ一命ヲ乞ル謹慎ニ不及闔城滅令
ニ候間為御褒美相与右之手柄情實
ヲ以テ申越候ニ付而ハ其方ニ於テ
モ弥忠節ヲ尽シ可被勤候
四月
七日

本多豊後守

閏四月朔日

高倉殿　　四條殿

右六卿被召寄常盤殿内裏へ
同四日

羽州本荘侯邸
坂草觀音寺
後

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

侍ら多勢加原ら八方より攻寄ける故名古屋方より援兵九人手死ら
夏千人程後陣ら因幡勢揚土ら皆逃退くを得ず家ら焼土水斎ら
浪士ら追討ら多人数討取又ら生捕ら
ま〻刺ら殺ひ後ろより迫ら雨ら如
中ト云ふら一人ら二人ら死八人ら
ら云ふら故ら尽ら迫撃ら
尾下諸ら云ふら風雨後ら
ふら故ら十ら手負ト
ふら故ら
一
ら
ら
ら

御原殿

右疾速警衛御行営之手伝等之儀迎御進発之事

同廿五日

宇喜殿

右於西城左之通申渡

戦後鎮撫兼令洋征伐総督

同日

四條殿

右於西城左之通

戦後治安兼刑法裁判副総督

右之通被仰渡候事

玉川一学

(十三)在江戸仁和寺宮其父書状

此地ニ参着之上錦旗并大鏡之音ニ驚キ候ハヽ如何ニ可有之哉ト二日夜四ツ時頃迄ニ戦争有之

一ぢ〻ニ而ハ中〻ニ叶刀ノ及ニ切合ニ成ル事ニ而右ニ驚ク事ハ勿論ノ人ニ而ハ無之候ニ付其ノ人ニ入ヤ否ヤ其人ニ入ヤ否ヤ其人ニ入ヤ否ヤ其

一官兵ヨリ関東筋国々ニ高石ニ付金拾両白米四斗入三俵ニ付上納ニ致候事

但常陸国水戸迄引ニ鎗有之候ニ付在ル調達ニ及ヒ此上本門寺迄持参ニ及ヒ上納

後暫時ニ引ニ鎗ニ而申達有之引取候事

一三月十九日頃ヨリ本郷辺寺院ニ市中、官軍先鋒止宿

一芝青松寺長州陣営ニ紙札張有之一見ニ及フ

一芝切通ニ鯖江侯第大村陣営ニ札有之

一三月十三日小川街大平氏元兵頭職宅ニ組下ニ而人数引受会津入座敷ニ追

詰ラレ大平氏即死侯二人ニ同人ニ同志申込有之

一会津ニ於ル長州ニ而武器ニ諸道具使者ニ以同志申込有之

一四月十四日夜徳川旗下ニ士其外転宅ニ深川八幡ニ而ニ三ヶ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 三番町火所歩兵弐百人程如何様諭ニ而も同ニ上州ニ
御軍艦観光丸ニ乗り参り居候由ニ而
一 上州迄在々悪党横行乱妨相募候ニ付旧幕本陣ニ及ビ
候ニ付
一 四月九日藤堂家大砲家人数砲弐、出張
一 四月十二、七日頃野州表ニ而藤堂勢大砲数十門ニ而
敗北器械小荷駄ニ而失之
一 常野総弁ニ諸侯方水戸ニ入ニ而
一 野州宇都宮城ニ上方勢入城候ニ脱走士ニ而
上方勢新ニ加ル三日三夜責候ニ入れ九日脱之士皆日光山ニ退り

一 結句迎脱走士北集ニ候 勅使佐倉城ニ義ニ積りニ而先陣結句ニ向ニ脱士
ニ而通路ニ塞キ可申候ニ脱士より官兵ニ対戦ニ日限ニ申入れ十三日之内ニ結ん
ニ而退引ニ相成官兵ニ答ニ九日ニ至又閏四日ニ延ニ申来ル十三日暁ニ至り脱士
ニ而大砲数門市川御関所ニ而上方勢川向ニ脱士ニ而時砲数発ニ而終ニ川ニ而敗ニ而相敗ニ官
兵敗ル
一 四日船橋ニ而官兵敗
一 市川ニ而七、八軒ニ而民家不残焼ニ
一 江戸三大橋ニ而官軍方固ニ其場ニ而皆東方ニ戦ニ臨ム
一 四月九日ニ近藤勇官兵ニ而ニ而ニ而十位
一 徳川領民ニ而ニ而官兵ニ而ニ而ニ而

一鬼怒川ニ砦ヲ設ケ荷物ヲ船十三艘友兵ヲ乗セ後続
一十四日佐野川馬加合戦友兵敗走シ全軍ヲ失フ
一武徒野州ニ於テ十四度合戦ニ皆敗走士敗北
一旧老王京師ヨリ名ヲ領民并江戸市中ニ
ラシ大垣ヲ極メ悪事不留有リ人数引受ケ捜シ
一上野寛門并ニ悪者ノ早打ヲ暗殺ス 但野州戦場ヨリ追ニ
一岩槻表 大関主膳正ヨリ友軍場人ニ命ヲ
二万石
ノ新申
一十四月七日夜ニ岩川ノ陣館ヘ 水戸表ヨリ
差富坂下流ニ於テ有リ処ヲ敵ニ引入ヲ
是、天狗約ヲ者柳派ヲ者ヲ害ヲ
一上徒御ノ戦敗走隊三百敗北ニ付
書ヲ以柿本壱揃ヲ
一本所松倉町通行筋金座役人名前不知
ヲ逢当人ヲ其場ヲ逃シ差加ヲ陽ヒ
請受刑ニ行ス
一敗走士上役ヲ加ヘ後ヨリ
一十月廿日 松平飛騨守追ニ異ヲ
御仁恕被 仰出寛典ニ
右御請
郷内大ニ数輩有之仕ニ付徳川家名ニ成行不
覚悟ニ付テ一ノ松ヲ以テ以上

彰義隊中
所傷作改
且中外新聞
所出有ニ異
益ヲ知不其
委也

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

壬四月五日

総督参謀流弾

一此頃風説、在内ノ天童侯織田越前守
二万石　陣屋ヲ焼拂此旨趣ヨリ天童侯ニ山形
上ノ山両家助力ニテ七ヶ所ニテ戦争元田勢敗北ニ及トナリ

一彰義隊七千許当時東ハ入山御堅言衛申上ル由
精鋭隊清風隊千余隊名数多有テ都ヲ二十五ヶ所ニテ守ルナリ

一壬四月五日ヲ移近迫押伝来ルヤ下悪徒ノ首ヲ晒ス罪科ノ次第ヲ記メ
有テ札ヲ建首ハ箱ニ入彰義隊附添往来ノ人ニ為見ル由ニテ

一御本丸ノ町家ニ打入金次ヲ悪徒御細工大根彰義隊詰所ニ臨所ニ出
れ、直ニ取捕ラレ先押札ニ止候草榴寺ニ送リ斬首ニテ由リ

(六)在京久保英南書抄　改元四月二十日

当地ニ去月廿一日　行幸被為　在ノ後大ニ人気ヨク平穏罷成ト承リ其以前ハ時々
暴ノ沙汰モ多ク承リ候ヘ共近頃ニテハ安堵ノ事ニ候ヘ共モ見留不仕ニ関東ノ方ハ兎角野心ノ者
ハ又北越辺ニ合体脱走人乱入ノ説切ニ行ハレ候ヘ共彼地ニテハ防戦ノ為ニ
第二ノ兵隊差不被遣ニテ徳川公ハ水戸ニ御謹慎ノ趣ニ候ヘ共尚又追々
御進軍ニテ先般大政奉還ノ事ニテ先ニ
遠多ノ者ニテ始テ長岡ノ完全ノ公論ニテ
有リ改札ヲ被下候ニテ兼テ之ノ
切ニ御礼ヲ差上ル由ニ候ヘ共
候ヘ共ニテ御大政奉還ノ儀ハ
板ヲ回ハシ候ニテ
多ノ諸侯ノ
ノ諸侯ハ新ニ上京ノ
一ノ

寄附金等之外敢辺何ら関係無之候間此段申上候
尤御面倒御後始末等ハ御深切ニ御取扱被下度候
以上
四月二十日夜三更

(十九)閏四月十一日在京久保英車寄其家兄書状

備前八日　還幸ニ付為　在ル則南御門前ニ於テ有見仕ル處　御行列ヲ大
ニ先般　行幸ノ節ト同様ニ而ハ甚タ倹ニ候ヘ　玉輦ノ御先ニ伶人三十人余
初ニ笙笛大鼓等ヲ以奏樂如何ニも正々堂々盛儀厳粛ノ中ニ白ク二雉々
和平ノ意ヲ表シ感涙ヲ催ス二交ルヲ不知候ヘ共一紗安堵仕候
又翌日於二条橋下ニ新撰組近藤勇梟首ニ付ル一見仕ル處
深狀左ニ通リニ候ヘ　日本政官日誌第十六所出

此者元悪ニ深ク加担ノ者ニ有之上ハ厳重ノ御取扱ニ可被成候
武州流山西所ニ於テ　官軍ニ敵対ニ付
大逆ニ依テ梟首ニ処ス
閏四月七日

桜地国流山駅
高下総葛飾
郡

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

右之者八三日昼者より夜に入り昨日又二一見仕候處大に痛之靈魂慈と見へ今日も大抵い下し又昼者より夜に入小子宿元へ西村弥太郎近藤鉄治郎二子と郎名のこし此度西山爽気稿と高額の書と一幅を一睹之中より下陰一東山之句詩向我宮之気象を発し西大江之西之者彼此雅情の筆ら多き一の情八日夜旬忙まぎ一つ書と晩陰ふ

仕下

右四月十一日於鄭水東辺茅宮八幡宮之画錦籠町陶工之家

西山爽気稿上呼情之者

(二十) 工員士名面

井伊掃部頭家来
四下部三郎右エ門

北川徳之丞
屋敷ハ千代字
遠山亮策

河島萬次郎
佐々鉄三郎
おそら終宇家来
関鳥金蔵
佐藤江馬
弟四加賀爪家来
永山子太
陸原漠太郎
小谷兵左エ門

池田内膳守家来
松田四人
伊王野治部左
黒田美濃守家来
太田申之助
三好者吉
この家名正家来
山野崎右衛門
鳥井新二
池田備前守家来
荒尾九大夫
津田彦左エ門
紀伊中納言家来
本居中衛
津田兵弥

戸田淡路守家来
鈴木房太郎
九鬼大隅守家来
右カ久律三郎
田子金二郎家来
川西上之丞
黒田甲斐守家来
阿部傳兵衛
あるは江戸勤番
杉浦庫之助
杜田中務家来
昭島啓介
稲垣若狭守家来
田中九仲
藤堂和泉守家来
幸田大郎
美濃守家来
中村嘉右衛門

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

松岡義加之助　松岡義加之助
村井貞勝　村井貞勝
豊臣秀吉　豊臣秀吉
羽柴秀勝　羽柴秀勝
山名豊重　山名豊重
刑部大輔　刑部大輔
小姓　小姓
十大夫　十大夫
小姓頭　小姓頭
筒井順慶　筒井順慶
新大　新大
久馬　久馬
相良遠江守　相良遠江守
新宮佐大夫　新宮佐大夫
京山高大夫　京山高大夫
辻藏主　辻藏主
鍋島肥前守　鍋島肥前守
小村右近　小村右近
大木民平　大木民平
杉本近江守　杉本近江守
中野齋　中野齋
永井日向守　永井日向守
中野德立軒　中野德立軒
有馬遠江守　有馬遠江守
新名攝大夫　新名攝大夫
京極佐渡守　京極佐渡守
加藤修理亮　加藤修理亮
久松大和大掾　久松大和大掾
松平美作元　松平美作元
久松内藏丞　久松内藏丞
井上義七　井上義七
織田兵部大輔　織田兵部大輔
村井右近　村井右近
豊田　豊田
連　連

加藤孫　加藤孫
小姓頭　小姓頭
加藤孫市　加藤孫市
野間傳三　野間傳三
牧野遠江守　牧野遠江守
太田平馬　太田平馬
伊藤修理亮　伊藤修理亮
村上源五　村上源五
松山彪介　松山彪介
小林健藏　小林健藏
國田保　國田保
織田行藏　織田行藏
杉井甚之丞　杉井甚之丞
野部　野部

長坂範大夫　長坂範大夫
青山大膳亮　青山大膳亮
溪　溪
關部筑前守　關部筑前守
紀　紀
坂田　坂田
茅乃　茅乃
三　三
河村雪三　河村雪三
織田出羽守　織田出羽守
田邊源吾　田邊源吾
加藤遠江守　加藤遠江守
弓削兵藏　弓削兵藏
加藤出雲守　加藤出雲守
三枝修理　三枝修理
戸田井伯耆守　戸田井伯耆守
小松彪大夫　小松彪大夫
大國秦次郎　大國秦次郎
小山勘介　小山勘介
田　田
佐野安藝守　佐野安藝守
石川直之進　石川直之進
三宅藤大夫　三宅藤大夫
前田玄以法印　前田玄以法印
柴田鋼之助　柴田鋼之助
稻葉藏人　稻葉藏人
佐久間甚九郎　佐久間甚九郎
村上正賢　村上正賢
伴野佐右衛　伴野佐右衛
杉下直衛　杉下直衛
堀井清二　堀井清二
土田川紋　土田川紋
長岡亘　長岡亘
時信人　時信人
中村知一郎　中村知一郎
清水八右衛　清水八右衛
宮平孝衛　宮平孝衛
木下敬金次郎　木下敬金次郎
石橋　石橋

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

在京諸藩ヘ

徳川慶喜段々恐悦之旨御愈謝罪之寛典相立候ニ付慶喜之処分旦ツ
家名被立下候付相続人并
度　思召ニ而議事有之候間明後九日巳刻
童臣ヲ以　大政官代ヘ可差出旨被
四月六日

諸藩士ヘ

旧文谷見込書有之候　太政官代ヘ出ス可致旨被
但所労ニ而不参之向ハ見込ヲ書有之候節当
四月六日

其方家来共在坂中當正月三日(後)不容易時態ニ至リ
ニ義共有之旁和寇被止官位入京追討被　仰出候處猶(其)方ニ在國中ニ
存知先頭ニ立早速取紛ニ所徳川慶喜上京ニ(村)家来共兵粮(粮)敬言衛被申
付罷登候途中於伏見表混雑中官軍ニ(紛)ハ不相弁誤而發砲仕候次第
非人大不敬之罪ニ以出先ニ重臣小夫兵庫小河又右衛門誅謬ニ加ヘ首級差出
將軍宮ニ勤願仕候ニ素ヨリ　朝廷ニ無二之忠勤ニ而尽ニ心底ニ有之
謝罪之道相立候段之義申出候ニ付格外之
日関東追討之節出兵ニ(忠)勤奨實効ニ其功労ニ(真)
前罪　御宥免可相成段兼テ　御沙汰之旨モ有之候ニ(軍資)
海陸御人數御配當相済居候事ニ付　御手金調献彼是實効相立候ニ(條)
論罪前出先家来不束ニハ有之候得共大義順逆ニ不相弁次第ニ(村)家来共
之示方不行届ニ相當候事ニ付此度　御免官位被復候ニ(條)所以国論一定精ニ可励忠勤旨
恵ニ候ニ謹慎被　御免官位被復候ニ(條)所以国論一定精ニ可励忠勤旨
御沙汰候事

但奉對　官軍致戦争候ニ(ニ)付家来共不届ニ(ニ)付家来文
筆ニ(ニ)而長上ニ(ニ)当リ者死一等ヲ減シ一等ニ(ニ)處シ(處)永牢申
付候ニ(ニ)付ハ上ニ(ニ)ハ(ハ)条緩ニ(ニ)(テ)ハ(ハ)不(ハ)被行(ハ)刑法ニ(ニ)(ヤ)モ(モ)不(ハ)被行(ハ)ニ(ニ)(ヤ)モ(モ)

右之通ニ(ニ)(テ)不(ハ)苦(ハ)ニ(ニ)(テ)(ヤ)モ(モ)鉄砲ヲ(ヲ)以(ヲ)テ(テ)打(ヲ)殺(ヲ)候(ヲ)者(ヲ)

松平讃岐

朝廷ニ(ニ)(テ)(ヤ)モ(モ)

軍務局ニ(ニ)(テ)(ヤ)モ(モ)

戸田家如正

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

其方家まで在府中毎正月三百俵不変
朝廷為何ぞ後者ども止入京坂ども在国中ニ早速屯集仕
候様徳川慶喜上洛ニ付被申渡候ニ付兼而
驚入候表ニ加判後日ニ至り候者一ヶ戦
及ひ候節ニ相違ニ付急度ニ可申渡旨ニ付
思召ニ而 御会桑随ニ東征先鋒ニ 仰付其節勤功相顕候
上ニ而其功労ニより 御宥免一ノ和成ニ
ニ而ニ 御国ニ於ニ勤孫文ニ三月九日於義勇誓願改一致候
此度勤功相立候者共ニ不残ニ
御仁恵ニ而ニ 御宥免ニ
一定筋ニ而ニ勤忠ニ
但ニ 官軍ニ対ニ
準ニ
及処刑ニ
ニ
作右ニ条ニ
御宥免ニ
謹順ニ
閏四月廿日

稲葉美濃守

酒井左衛門尉
水野日向守

○閏四月廿四日被 仰出 行程前日記事 六一ノ出

此度 御親征海軍 天皇御見初の 御時機と 智識華洋に卓絶の 思召より 如 大後醍醐帝の 関東を 新政の 言よう 頻有 東国通い 大都をとる 不一の 救大深巌 謙至当の 叡慮 天裁 仰ぎ 依て 御所置 作者 依て 叡慮を以 寛典を 御所置 天裁 仰ぎ

仮貨幣新令

一 大政御一新ニ付宇内貨幣之定價御吟味之上古今通用金銀銅錢等
別紙之通リ被
仰出候間支配末々迄不漏被可相觸者也

慶應四辰年閏四月

太政官

別紙

一 慶長金 小判 百両目方四百七十六匁
一分判
内金四百〇一匁二ト八 銀七十四匁七四

一 武藏判 右同断

一 乾字金 百両目方二百五十目
内金二百十匁。七三 銀三十九匁二七

此通貨四百七十五両二分換

一 元禄金 小判 百両目方四百七十六匁
一分判 二朱

而後治乱ニ応シ時機ニ依リ要方ヘ行幸ノ
行列ニ於テモ三等ニ分ケ定追々ニ
ハ連ニ連 天聽歎 思食ス民力ヲ者ヲ
ル御手當ニ一ノ感ヒヲ第一御簡便ニ注意
殿慮ニ合厚ノ利ノ 御沙汰ノ事
辛四月
先般 御誠警ニ合ヒ基ヲ度 還幸ヲ上ル 要今少ヲ以不日二條城ヘ
玉座ヲ移ス機親裁ヲ 開会議ヲ以文武御備完ヲ
ヲ超下ス 仰出ノ弥以御請候士民ヲ一ノ勉励
御布告ノ
辛四月

内金二百七十三匁　銀二百〇二匁九三七

一享保金　小判一分判　百両目方四百七十六匁
内金四百十三匁〇九六六　銀六十二匁九三四

一古文字金　小判一分判　百両目方三百五十目
内金二百三十目　銀百二十目

一真字二分判　百両目方二百五十目
内金百九十七匁四三五　銀百五十二匁四六五

一文政金　小判一分判　百両目方二百五十目
右同断

一一朱金　百両目方六百目
内金七十二匁三二八七　銀五百二十七匁六七一三

此通貨六百三十五両三朱換

此通貨九百三十両一分二朱換

此通貨五百二十八両二分二朱換

此通貨四百六十両換

一草字二分判　百両目方三百五十目
内金百七十一匁二　銀百七十八匁八八九

一古二朱金　百両目方三百五十目
内金百〇二匁六六六　銀二百四十七匁三三三三

一五両判　百両目方百八十目
内金百五十一匁七二四　銀二十八匁二七六

一保字金　小判一分判　百両目方三百目
内金百七十匁三二六　銀百二十九匁六七七四

一正字判　小判一分判　百両目方二百四十目
内金百三十六匁三五八一　銀百〇三匁七四一九

一安政二分判　百両目方三百目

此通貨四百〇四両二分換

此通貨二百六十両〇三朱換

此通貨三百九十六匁三分二朱換

此通貨三百十七両一分換

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

内金五十八匁六六六六　銀二百四十一匁二三三　此両貨百六十一両三朱換

一　元禄大判　一枚　目方四十四匁一分

内金三十六匁六一五四　銀　十二匁二四七五　銅一匁二三七　此両貨六十一両一分三朱換

一　享保大判　一枚　目方四十四匁一分

内金三十六匁六　銀七匁九　銅一匁六分　此両貨七十八両一分換

一　慶長大判　一枚　目方四十四匁一分

右同断

一　新大判　一枚　目方三十四匁

内金十一匁　銀十六匁　銅三匁　此両貨二十六両二分一朱換

（二七）矢代渡津関門出役飯島二水書東所小役西走筆童注

下役と市川邑鴻と甚不戦争と官軍勝利賊徒退散告家人其外残兵を會津へ立去り多分先達而と戦争と寡出ゆえ旗本不多

此辺子ニ而ハ西ハ下歩兵八百人程是ハ甲府へ者通行仕ル分役地へ形勢第一ハ八王子

分今ハ加り居ると申ス　當三日　茶甲府ニ

ハ廿ニ而集ル賊相見へ候由ニ而ハ英格別ニ義ニ有之ニ而ハ無之ハ中山ニ事情

聞ニ而ハ外ニ而ハ無之ニ而ハ御用金ニ多分ニ取上ル由ニ而ハ金ニ七八千両程ニ有之ニ而ハ百姓之内

ニ而ハ貧生ニ而ハ無之ニ而ハ用人ニ而ハ六百両程ニ有之ニ而ハ豪商ニ而ハ多分ニ有之ニ而ハ代者宜ニ而ハ無之ニ而ハ

ハ無之ニ而ハ歎ハ一統恨ニ而ハ無之ニ而ハ明而ハ無之ニ而ハ一統恨ニ而ハ歎渋ニ而ハ勉中ニ而ハ先達ニ而ハ精一郎ニ而ハ夏子ニ而ハ

ハ陣屋ニ而ハ有ニ而ハ親子離ニ而ハ無ニ而ハ有ニ而ハ金ニ而ハ方ニ而ハ歎度ニ而ハ有ニ而ハ

四條殿江戸表ニ而ハ一日市ニ而ハ當ニ而ハ戦後ニ而ハ所ニ而ハ馬ニ而ハ和宮ニ而ハ等ニ而ハ田舎ニ而ハ簡早ニ而ハ江

戸表ニ而ハ陣屋表ニ而ハ向ニ而ハ違ニ而ハ等ニ而ハ英早ニ而ハ陣屋ニ而ハ松ニ而ハ作度ニ而ハ

一 内金五十八匁六六六六 銀二百四十一匁二二三
一 元禄大判 一枚 目方四十四匁一分
内金三十六匁六一五四 銀 十六匁二四七五 銅一匁二三七 此通貨百六十一両三朱換
一 享保大判 一枚 目方四十四匁一分
内金三十四匁六 銀七匁九 銅一匁六分 此通貨七十八両一分換
一 慶長大判 一枚 目方四十四匁一分
右同断
一 新大判 一枚 目方三十四匁
内金十一匁 銀十六匁 銅三匁 此通貨二十六両二分二朱換
一 寛永通宝銭 但當百四十二文 代り十四文 天保百文銭一枚分 四枚うけ換
一 寛永銅銭 但當百四六文 代り十二文 天保百文銭一枚分 八枚うけ換

一 文久銅銭 但當百八文 代り十六文 六枚うけ換
但し天保百文銭、是迄之如通用
別紙を以て御触書
一 四月廿二日 西丸下歩兵八百人程是亦九分通り先達而より戦争に罷出候旗本に多分加り居候由にて
當三日 糸甲府へ着通行仕候付彼地にて形勢第一之八王子
廿七日 元集に賊相見へ候由にて是亦格別之義にも有之候得共第一之金七八千両程に有之百姓共
御用金に多分取上の義に付是亦同断に候間用人を以て風聞有之候得共
永堂に於いては不分明に候得共一統恨に類候中にて先達而より頻に
永陣屋に立籠り親子離れ離れに相成候よし専らの噂
四條殿江戸表六一日御出立當月中旬迄に御帰坂の由
江戸表より御急便参り候趣早々御帰坂の御催促

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

越後椎谷ヨリ奥方ヨリ書面返ル書面ニ書物添ヘ

津川新陣屋ヨリ書面ニ而ハ場所ハ今ハ津川新発田迄ニ而ハ
續キ候而高キ山有之竹山位ニ而有之ハ津川
新潟ニ二十里余ニ有之ニ而東山ヨリ三里余モ有之ニ而ハ行届兼
ル而已ナラス後ロハ海ニ而ハ後詰ハ望薄ニ而ハ

小諸ヨリ廻達之写

野州大原山口光山両所ヘ賊兵立籠リ宇都宮ヨリ
御発向之由ニ而戦争有之ル
今賊二千人計我後路ヲ取切侵入ノ趣ニ而
御出張ノ由。
右ハ関門ヨリ降参之者ヨリ承ル之ニ而ハ
徴兵探出シ拙　御油断ニモ成不申様ニ
東山道総督
執事

雑氷関門
写

よみうた

棒杭ニ立ル人をハ情ある者ハ
まゝならぬ人ハ
江戸を見たくハ
よるべハ
仙墓ニ
萩がさゝふがくつゑがあるが
矢代近辺ニ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

江戸を見てくくく

㊲會津蠟燭賣ㇾ之ㇾ札

ㇾ直段二十三万石当時直上ㇾ之二十八石ㇾ石ㇾ之直段ハ

三德詰合

三德功旅

一要害ㇾ

一城郭ㇾ

一武威ㇾ

各枝益御堅成ㇾ成ㇾ守陣中ㇾ日儀ㇾ温雅之ㇾ主実ㇾ遠察ㇾ

儀ㇾ辺鄙之土地故是迄左程ㇾ賞美ㇾ年ㇾ歴ㇾ

ㇾ覚知ㇾ残名ㇾ哉ㇾ之ㇾ

ㇾ昭ㇾ敷ㇾ入ㇾ義下ㇾ

ㇾ表ㇾ

武威ㇾ

徳功能ㇾ

ㇾ

ㇾ

一

二十三 三月某日長州奇兵隊建白三ヶ條

此度関東 御親征ノ義不可被遊 御生慮ニ座ル而ハ萬民駱駝ノ苦ミ恐多クも

一天之主上ニ而海内人民ノ善悪ヲ申開ク可キ義御止メ奉之而ハ忽 皇國大亂ノ基ト可相成

一外国人 御勝元寄ヲ付ケ候ハヽ以後外夷ヲ攘掃之期ニ至ル而誰カ盡力可仕哉必矣 然ル上ハ

一天下之政事ハ必徳川家ニ而ハ一切悪弊ヲ諸藩ニ是ヲ衆議ノ外更ニ參テ何ソ三百年来大

改仕事ヲ天下之人民ニ而ハ伏而之所ニ今 王政復古申ス公家諸侯ヲ入改事有之ト雖モ

人數ノ多ク曼ヽ更ニ服伏セサル所多ク新ニ何ソ追々世俗ニ差置ルヽハ終ニ諸侯等ヲ

背キ自國ノミ相固メ天下ノ御爲メ不相成ノミ而已ナラス御手ヲ煩ハシ候ハヽ忽チ大亂ノ基眼前ニ有之治安更ニ參ル事

二十四

横政屢胡誤一新 叡慮勅諚偽ナ真

小才大奸參謀輩 無學妄論議定人

八藩厚顔陋建白 三條腐爛腸腐爲夷蕃

親征遊行實無益 漫募用金苦万民

二十五

長州參豈ヤキニキリ〳〵ス小山ヲ見ハ五位ノ鷺ノ如クニ

ちゝろ〳〵 勅使チョヘノオッチョコチョヘ〳〵チョヘ

二十六 戦後ニ而作刀方ヲ作ル歌 俗ニ

ニツトセ人の心も幻〳〵すてゝ一度ニ神まん信州ヲ ユノ面白サ

ニツトセ深く參ノ国ニ文錢て長道ヲ 帯 ユノ面白サ

三ツトセいくる一切よりぬ源氏車 ユノ面白サ

四つトセ よをいろ〳〵車をバ真田が押すとハ氣っつよい コノ面白サ
五つとせいつも麦飯落着ず 我後いおまる生さうる コノ面白サ
六つトセ むちうつたゝてもよけをとらず
七つトセ伝ら何まで理まつまう商机ま敵うけるのやうさ コノ面白サ
八つトセ やぼな多や真田さん武士ま似合やせんど 追 コノ面白サ
九つトセ こちらで打うや行がうゝたゞしいそつぢて勝ち
十トセ 迚も真田や上田ま敵後へまれバ皆ちいこ コノ面白サ
天野 古屋 あめれふるやも風ふくよふるもくらゝれるら事ぬうよい
松代方言

(三) 矢代川阻水 阿部濤平 偷樂散人 名緝字公遜

千曲川邊連日留水行聞向越州流ニ到三條為ア
報信陽驛裏一般愁

戊辰信州矢代驛遇重五
信陽驛裏遇端陽為慰旅魂聊把鵜客舎亦同故園
倒吟身先浴艾蒲湯
戊辰五月驛路有故暫借金剛精舎困賊一絶

以奉呈山主
松杉磬々金剛山暫借梵墓慰旅愁只愁此地無相
識願欲老僧許拜顏

戊辰夏日松代阻水寓居即事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

淹留十日廿女詩朋梅雨空濛豈可勝不識吟神能健
否麝茶淡飯似山僧

戊辰夏日麾從公駕寓於閑窓群卒同清浄水迴苔蘚
砌青蒼樹擁梵王宮胡蝉豆如僧倨敲垢衣似野翁
早入越州封内地萬民迎駕喜無窮。髮

戊辰夏日江戸寓居作

自悵東都作客身家緒今日耗耕辰胡仏蚕豆櫻桃
美每食時新憶老親

戊辰夏日今戸大七之樓即事二絶

大七之樓把酒扈撥簾雨裏景殊奇前灣葦表知何

五月十三日

太政日誌十八出

(三)五月七日京洛拜謁不二ノ沼ニ功ヲ勤ケ由小路右少弁御直衛ノ後

御書附之写

御名

去四月賊徒信州路侵入ニ付勇励防戦隊荘藩救助シ速ニ賊兵及潰散且今度甲州路出兵第後ヲ人数ニ徴発不悼艱難ヲ厭悩不退之神妙ニ至候

王事ニ勤労ノ依藩屋ヲ職任武ニ

(六)召ス

思召ノ旨上益奮励ノ実ヲ成功ヲ期ス

御沙汰ノ事

五月

右御宸翰五月十二日暁京両人兵卿ニ到来ス而シテ水不通硬塞次第遅緩十六日西迄ニ

(元)在京久保雄之進書状五月六日認同九日着

前略扨又ヲ経諾年ヲ相湯ヲ勤労モ不相立恐入候ニ付

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

ル千後ち敢勢如の相成り我藩ち疎ん支更に不承届心住ん行き会津征討さて越
州迄出張す此人数ハ進軍ち度下由ち之甲斐ち多
減奉ち寡の近日ち両天加茂ル出水ル太松二条ち松
行き之流落住ん時ち定ち軍筑媒花ち洪水と雨即住ん此義意節ち妻と
ち守ち保し 総裁職内局事務制度寮御廃しち機新ち輔相ち皆被ち
立岩倉殿ち任之鍋島阿州侯ち楼天納言ち被任土薩侯ち上京ち議次
田物ち任ち尾ち 此二侯当時大坂ニ在り 薩ち小松帯刀大久保市蔵長ち木戸准一郎庶
澤兵助土之後藤象二郎福岡藤次杯従四位下ち被任土之神山左太衛尾之田中
国ち助大垣小原二兵衛越三岡八郎杯ち従五位下ち被任ん其他徴士
都ち御廃非職人ち徴士数十人出ち申松尾但馬一人ち五百ち
皇居二条城ル被為移ん時 太政官代ハ 御所内ち皆移ん過日来 朝廷向
移ち御変革被為在ち全 御親裁被為遊ち如上後藤職杯被ち廃ち
ち尾ち

主上ち毎日朝五ち時ち出御文武御研究被為在ち時入御ち被為遊ち如上中略去月晦
日ち申巡遊被 免ち事余程ち石住ち特場ち五十日ち間何一ち事ち不ち
大ち不ち斜ち等ち此義銀ち場ち十九匁位ち下ち文或ハサコ七
ハ匁ち下ち 此頃諸藩貢士ハ従 朝廷御召ち被ち為ち
ち郡兵制ち事 其二 禽計之事 其三 関東御所置ち事 去月廿五ち日ち
事ち来ち二日迄ち申ち下杯ち之ち事ち 誠ち天下一般会計ち之ち費ち
杯ち大ち費ち故当時度ち変ち之ち為ち之ち下ち
翌午後ち於ち西山楽ち梅上記

七ら〻御奏書 写〻見

右之通被 仰出候間 其方領分之内 小路右廿ヶ所之儀 一ノ木戸 御警衛 御感戴 厚 御趣意 一致同力 勤労 相励 一ノ忠勤 奉 天慶 候 此上 弥〻 御警衛 厳重 可 被 仰出 候 事

感字意字不當
當作頂戴歟
感心

太政日誌 五ノ出

(四) 高田藩 御達

其方領分 賊徒信州 松平辺 近辺通行之節 応援 等賊徒証書受取之通 行差免 候 旨 届出之 有之候 処 賊徒 通行 之 主意 不 相分 候 儀 有之 領地 内 通行 之 節 者 勿論 兵隊 引纏 候 儀 不 苦 候 事

(四幕府領地ヲ除ク)

朝敵 賊 之所業 弥〻 修理 糺明 之 上 厳 及 彼是 時宜 ニ 寄 致一ト通之 詰書 を以 容易 ニ 通行 為 致 候 如何之心得 ニ 有之 候 哉 不 相分 候 間 其 方 領分 内 通行 之 節 者 勿論 兵隊 引纏 候 儀 不 苦 候 事

飯山城 ニ 相迫 候 戦争 ニ 及 候 頃 四等国 届出 之 者 共 ハ 全 其 方 手勢 ニ 加 候 哉 之 動 (後ニ有之候)

王之心願 甚 以 如何敷 候 剰 先般 北陸道鎮撫使 ヨリ (組)

裡之 廉 彼是 御不審之事 件 鎮撫使出先 ニ 於 テ 取計 候 儀 (御カ)

之 依テ 心得 方 如何 ニ 候 哉 於 テ 可 被

可 令 上京 旨 御沙汰 之事

閏四月

(四二) 在京久保雄之進 寄 家兄書 五月廿二日同廿九日高野村神主安藤義夫方ヨリ参

前略 其元 出陣中 事 恙 ニ 越 皇国 ニ 有 難 存 候 扨 此 度 之 戦争 ニ 追〻 北越辺 戦争之次第 委細 ニ 承 知 仕 候 然 ハ 当 秋 収穫 之 節 ニ 至 候 ハ ヽ 御 両宮 御神霊 被 為 護 敬 ら 敬 ら

奉感激ニ堪ヘス戦報ノ毎ニ蒼然突起仕一命ヲ捧ケ以奉公之素志ニ御時節ヲ相待テ何時ニテモ有リ
座ラン事ヲ百万祈願仕候書取ヲ以
右ノ趣申上度如此ニ御座候 以上
　　　　　　　　　　　　　　　　久保雄之進

先般飯山城辺戦争之趣承知仕候ニ付早速飯田表ヘ罷越度奉願候ニ付テハ御国恩ノ万分ノ一ヲ報度奉存候ニ付テハ御用ノ儀ハ勿論ノ事ニ候ヘハ何ニ事ニ寄ラス御用ノ儀ハ其儘相勤罷在候間無御遠慮被仰付候様仕度此段奉願候 以上

北越御戦争　官軍大ニ勝ノ利ヲ得之趣ニハ御座候得共未タ賊徒ノ征討ヲ全ク奉存候ニ付テハ御時節而已ナラス御実以奉恐入候間仕度此段奉願候 御国恩萬分之一奉報度奉存候ニ付テハ御用 御免被下飯田ノ城頂戴仕度ナカラ嚮ニ海軍ヲ勤メ又ハ病気ニテ相願ス已ムヲ得ス帰国仕候ニ付テハ御用ノ儀ハ勿論ノ事ニ候ヘハ何ニ事ニ寄ラス御用ノ儀ハ其儘相勤罷在候間無御遠慮被仰付候様仕度此段奉願候 以上

　　　　　　　　　　　　　　　　久保雄之進

右之通リ如此ニ御座候間宜敷御取次奉願上候 以上

　　　　　　　　　　　　　　　　久保雄之進

御届書之趣ハ御聞届ケ候間ノ通リ唯今ニ滞在ニテ差支ナキ旨ニ候ヘハ出陣差免候 以上

　　　　　　　　　　　　　　　　久保雄之進

其筋ヘ御届ケ書ノ通リ相違ナキ旨奥印仕

當春長崎表ゟ通弁差下

軍務官權判官事試補被　仰付候事

六月

長谷川源美

右ゟ之勤ゟ候ゟ軍務官故守護戦屋數ニ當屋ゟ
此方様ゟ誠勝ゟ當ゟ十五ノ巻ニ出ル　御感状ゟ十八ノ巻ニ見エ　扨ゟ彼是碎候ゟ極
ゟ仰ゟ候ゟ節ゟ詰持参仕候ゟ段ゟ御聞召ニ成下シ　暫ゟ假恥島原今
治杯ゟ奥羽征討ゟ四條殿御親兵ニ而人引立下和三日ゟ參内ゟ屋下何ゟも駿
府ゟ申ゟ座下落候千人ゟ辛ひ江戸ニ發し駿州權中納言相房光鎮指發行ゟ
追ゟ奮翁之愛ゟ　御親征ゟ云ゟ在坊風ゟ多仏臺茅原山形杯ゟ賊一
味ゟ風ゟ聞ゟ極ゟ

右軍務官權判官試補被　仰付之事

五月

長谷川源美

昨夕軍務官ゟ明朝巳刻出頭可仕旨申来ル尚
詞呼參與ゟ屋但馬守ゟ以別紙長谷川深美ゟ御達之御書付相渡ス
當人ゟ御請當局ゟ罷出ル旨可仕旨被申聞ゟ則別紙ゟ奉出ル旨被申ル以上

五月廿四日

書入ゟ以申上候ゟ今日柳川貢士十時信人北条湊物頭池田七十郎同道御達有之
ゟ右候試補ゟ却ゟ有方之者ゟ多ゟ由ゟ仰ゟ事ゟ仕ゟ事ゟ申上ル以上

是ハ徴士試補ハ　御座ゟ向ゟ由

一

先年小笠原氏より従二位へ作文ノ

一 本居在京之一藩流球久祖迄洪水災行之仕
不得已事情有之候節宇牧之中ゟ
御預御願申出候趣ニ候得共
御聞済ニ相成候ハヽ

一 雲州出雲大社之儀ハ
お伺之上

(三) 一般諸國大小之神社ニ於テハ神佛混淆等之儀ハ御廃止ニ相成候ニ付別當社僧等
ハ還俗之上神主社人等ニ相加ヘ神勤相止退轉ニ及ハヽ
旦ハ佛教信仰ニ紛レ還俗之名ニ而ハ神勤相止退轉ニ及ハヽ
但還俗之者ハ僧位僧官 ノ論ニ及ハヽ
今之處衣服ハ風折烏帽子淨衣白差貫着用勤仕可被
一 是迄神職相勤候者ハ席順等之儀ハ
御決定之旨ニ付其上ニ
閏四月

(四) 御留守中市中取締被 仰付置候ニ付 兼而
御名
閏四月
○五月六日渡

右之通從　朝廷被　仰出候

太政日誌第十八ノ所出
十八ノ所出ニ同
月日ハ八日布告ニ同

(四五) 此度宇内交際之定價御吟味之上通用被　仰出候上ハ諸上納ニ不相成ニ付ても相心得且又私利を營ミ多分ニ賃ヲ取候類ハ勿論之事ニ候右定價銀銭ヲ以諸上納差支無之様御取扱相成候ニ付其方一手ニ限リ候ニ而ハ無之候間其心得ニ而精々取引致候様可致候事

(四六) 新著翻刻之書類　官許之上刊行可致旨ハ近来稀ニ之事ニ候猥ニ刊行致候ニ於ては不謂事ニ候間自今以後厳ニ　官許ヲ不経品書買肆ニ於て偽版致候ハヽ其品没収之上作者ハ勿論売弘メ候者ハ勿論其版元ニ於ても急度咎可申付候事

(四七) 主上御幼年ニ被為在是迄後宮　御住居ニ御事ニ候処旁　思食ヲ以来春　御住居被為遊度旨ニ付ては　御警衛向ニ於ても出御之節ニ於ても　御輿車之儀ニ付ては別紙之通被　仰出候間輔相ニ於ても其旨ヲ体シ八景之間ニ臨御之節ニ於ても其旨ヲ体シ八景之間ニ臨御之節ニ於ても其旨ヲ体シ八景之間ニ臨御之節

事之御沙汰ノ有之候間心得違等之ナキ様
右之段先達テ御布令之有ル事ニ候得共其後ニ相成候ヲ更ニ御通達有之事
過日御布令之相成候官堂上名目ニテ代貢附金ト称シ向ヨリ取扱之後ヲ止ル得共右
布令ニハ官貢ト致シ借請返納不致有之候ニ付右ニ相関シ候事ニ向後心得違等
無之様更ニ仕候事

但シ従前取扱来リ候名目金ト雖モ故障返納之致ス事

五月

(冕)白三運新ニ復シ國是漸ニ定リ萬機御親裁ニ出テ百事ヲ以テ備人トナル是時
ニ當テ猶ホ備ラサルヿアラン乎金穀ナリ右ヲ以テ徳川慶喜政權奉還之節国家之用
度併セテ返上勿論ナレトモ其儀ハヲヒ相運ハサル内奉ルヿヲ得ス乎況ヤ頃日征討之兵士家ヲ発シ
朝廷奉所入ル所ノ御費用不一方ヲ依テ乎況ヤ頃日征討之兵士家ヲ発シ
ヲ殺ス一途報國之術萬一軍費給セサル兵食ヲ闕ク時ハ億兆之愁ヲ慶久ヽ塗炭之苦ヲ受
ケンヿヲ恐ル日夜 御心辰憂ヲ為ス迄ニ至ル時ハ億兆之愁ヲ慶久ヽ塗炭之苦ヲ受
聖意ヲ奉承シ 朝恩ヲ感戴シ畢生之報効ヲ此時ニ就テ内外百官之衆ヲ普天率土ノ民
貢財ヲ乞ルモノハ其財ヲ以テ上下一般之力ヲ合セ四海平定之功ヲ御我植一之致事、
ノ銘々一人之私ヲ棄テ天下之大事ヲ考ヘ有餘不足ヲ補フ之天理ニ基キ各其ノ
應ン金穀御用相勤御奉公勤ヲ遂ケテ我ヿ郎兵士ヲ身ヲ殺シテ
朝廷ヲ盡スト同ヽ下ルモノ定テ此ノ間此ノ官ヲ以テ心得有ヤ
但シ御返納方之儀ヲ其筋ヲ以テ可ノ談ノ事

太政官

(三平)大改御一新之折柄貴賤ヲ論ス一節義ヲ表シ天下之人心ヲ興起スル程度既ニ豊臣太閤
柿中將之精忠英邁 御追賞被 仰出ノ趣ヲ以テ試ヲ奏忠誠義盡忠心天下ニ勇ヲ
國事勢ヲ以テ諸士及草茅有志之輩竟ニ推倒有ラサル所為親子之恩愛

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

を捨て世話表之禄二酬ひ墳墓之地を守り楠氏沐雨四方に潜行し専ら幕府之失職を憤怨し死を以て哀訴或ハ縉紳家を鼓舞し或ハ諸侯門に説得し出没頗ル暇不ル厭萬苦竟に他天下に表し且忠魂を社慰度今被東山之佳域に初宇を設け右等を盡魂を永く合祀之致ス被仰出候趣天下衆庶益節義を貴ひ可致大に奨励旨

身命に者全く名義を明ー　皇運を挽回せんとの至情より書方そ二所其志実に可嘉称況

やを家に有大勲労有ル事を湮滅に忍ふるやと深く被　思召候に依て其志操を

(五一)一　先般錦旗　大加馬御凱旋之節豊大閤之社御建立被　仰出候ハ柳本御内ハ撃剣及正翼義軍ハ其功績古人に亘り加之　皇威攻伐海外赫耀し　寶運を振起し萬世人臣之

墓域と相成候儀ニ付先年致毀壊ル畳之国山之廟祠更に　御再興被　仰出候ハ勿論其英風　仰敬景慕之輩ハ

得頼所者に　御座候ハ相成ル哉　天下之深慶能此事を得ル哉　御再興之事

五月

(五二)一　當春伏見敵勢以来引続き東征軍ハ之討伐に於て忠義戦死之者ハ日夜山川を跋渉し風雨に暴露し千辛萬苦　邦家之為ニ終に殞命ハ候段深不便に被　思召ル最其忠勇義烈實に士道之標準たるを以て　叡慮之餘り世変東山に於て新に一社を　御建立永く其霊魂を奉祀ハ　皇軍に身を殉ル輩建て合祀一のらる在ル間敷天下一同此分を奉戴し益可抽忠節且戦死之者ハ其家名を不朽ニ伝へ候様と　思召候事に候間諸向被　仰出候事

五月

(五三)　従　朝廷社　仰出而已

駿河国府中に城を築ク　仰付　領知高七拾万石下賜ハ候旨被　仰出候事

但駿河ハ一国を以て遠江陸奥ハ　皇子様御事

五月

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

此度格別ヲ　御趣意ニ依リ玄仕員人馬共御免休泊ヲ一切不相成ハ若有宿驛ニおゐて其ニ志を體し産業御宿料ハ時ニ相應ニ多少ニ一ノ手ヲ相減し一ニ不相成旅宿々家毎ニ張紙ニ認置ノ事万一過分ノ事ヲ取ル者ハ其ヲ改ル事

其外ハ一ノ手ノ通

但是迄相對ニテ得ト一樂ニ定仕員錢ニ倍增ヲ相心得ル者ハ勿論ノ事

一遠見板掛高張提灯ヲ後　勅使　院使　宰相中將已上ノ外ハ不苦事

一御用通行ノ諸家休泊ノ節宿役人ニ心得ノ者五人宿ニ入口ニ番出置ヲ始ノ外ハ宿名家書顕ノ張紙ニ致シ置ヲ名目ニ改事

但旅宿近附添ノ事

一御用通行ノ節旅宿ヲ始ノ人馬帳ニ記ノ宿役人ヲ一ニ立ル事

相越候ハヽ休馬有ヲ明ニシ相成候ハヽ御用無之ノ節ハ其系附記ノ事

一是迄幕吏通行ノ節ハ宿毎ニ千木枡ノ免許ヲ除理ヲ以ノ外ハ其宿ニ於宿賃ヲ多增ニ不可申ル事

但馬荷ノ儀ハ先ノ通ニ致ス事

一賄賂改ノ儀ハ別段被ニ置ハ得共又不ニ置ハ得共ノ儀ハ其ノ宿ニ於テ相改賄賂ノ有無ヲ相改賄賂ノ有ル者ハ其ヲ割ヲ以一ノ請ヲ事

一京都ニ而諸國府縣ヲ初メ　御用状ハ一ニ仕員錢ヲ以ノ外ハ一ニ不相成事

向有ヲ以テ總立ヲ問敷ノ事

一御用物ヲ宰領ニ而ハ其所ニ仕員錢ヲ以積ヲ以相渡ヲ其宿ヲ以ヲ請ヲ

ニ追ヲ留ル不ニ及ノ事

右ノ條ヲ以　御用ノ有ル後旅人ニ而万一ヲ法成儀有ニ於ハ御科ヲ可ニ被ル仰付ノ事

縣知事

私領之領主ゟ訴出之上及異後ハ、其不之者留置候ハヽ　御役所ゟ訴出有之迄駅々ゟ駅次ニ而通行之面々ゟ相改之一ヶ所ゟ得其意之者ゟ

辰五月

定

一　宮堂上家并地下人ニ不限自分印鑑を相添御用筋人馬継ハ、御印鑑を請自分先触を以通行之儀

一　諸向家来并用達町人ニ不限御用を以出京之節ハ大坂定番之内ゟ其将軍府ゟ印鑑を人馬継ハ、押特条之外通行等

一　諸向家来并用達町人ニ不限御用を以出京之節ハ大坂定番之内ゟ其将軍府ゟ印鑑を人馬継ハ、押特条之外通行等

一　以来征討之将軍京都警衛之為之節ハ是又書　御役所之御印鑑ハ請ハ不及他ゟ陣中幕下之士諸方ゟ往来之節ハ其将軍府ゟ印鑑を人馬継ハ、押特条之外通行等

一　諸向家来并用達町人ニ不限御用を以出京之節ハ大坂定番之内ゟ其将軍府ゟ印鑑を人馬継ハ、押特条之外通行等

添翰を以人馬継を当　御役所ゟ相達　御印鑑請ル人先触を以通行之事

駅逓司

一　諸國府縣ゟ諸侯ゟ領地ゟ神社佛寺ニ至迄自分印鑑相用ハヽ印鑑　御役所ゟ相届駅々ニ而ハ無差置家来往来之節右印鑑人馬継ハ、押持参之ハヽ通行之事

但京都府之ハヽ當　御役所御印鑑ゟ通行之事

一　諸侯ゟ定人馬遣高御制限被為ゟ近先是近格之ものゟ諸海道一之数通行ハヽ

一　京都神社佛寺地ゟ之ハヽ御用通行之節直ニ御印鑑を請小地ゟ之ハヽ其文面ゟ添翰を以　御役所ゟ可願出事

一　諸國小地ゟ神官僧侶修験普化僧検校百姓町人ニ不限御用或ハ領主用ゟ通行之節ハ支配ゟ印鑑を請通行之事

一　京都并出入之儀是迄相対宿入有　御用通行節ハ宮堂上家　家領有而ハ自分領民用ひ候事ハ今般高ニハ助郷組込有之ニ不及候間ハヽ宿ニ

出入馬借下賃之助郷洛外摸寄ニ而多く組之事

一 近来物價騰貴驛郷一般ニ及疲弊ニ付諸街道共人馬賃錢当辰年五月ゟ来巳年五月迄中之ヶ年之内五ヶ年割増被　仰出候事

一 諸藩國産荷物之人足町人請負之用荷物ニ而上ル分ハ倍五割増之儀ハ勿論之事

但右荷物之内町人賣物類用物ニ仕立或ハ空荷ニ而交荷ニ紛敷往来ニ而ハ不苦候得共荷主ゟ請負之もの切賃吟味之上取計可申事

右之通可相心得候事

辰五月

驛遞司

一 伏見宿是迄助郷等ニ而絶之人馬賃銭ニ而ハ賄方ニ差支候ニ付而ハ賃銭之儀ハ多分請元ゟ出浮世絵

助郷附属ニ而ハ差支候ニ付賃銭ニ而絶之儀ハ不苦事

一 守口宿是迄人足而已ニ而絶之儀ニ付助郷附属ニ而ハ差支候ニ付宿ゟ出銭之儀ハ不苦事

右之通可相心得候事

辰五月

驛遞司

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

在甲府綿毋貝氏書翰

陰暑之節弥以御勇盛之段珍重奉存候扨別紙之趣従
其表多人数之儀被申越候処今度中澤越川
其表人数之追々指出候儀無成候間此節柄御
用弁も御座候ハヽ指出候儀ハ其元ニ而御勝手
次第ニ御引取可被成候尤ふせき之儀ハ其表
子分之内人数壱人指出可被申候其外ハ
甲府人加勢御断之通ニ候間此段御承引可
被下候猶期後音候恐惶謹言

七月廿日　　信玄（花押）

綿毋貝氏

又今度沼津侯ヲ呼ニ遣ス事
ニ付テハ其表ヨリ多人数ヲ
出サレ候ニ及ハス候間其
元ニ而御勝手次第ニ御
引取可被成候尤ふせき
之儀ハ其表子分之内
人数壱人指出可被申
候其外ハ甲府人加勢
御断之通ニ候間此段
御承引可被下候
猶期後音候
恐惶謹言

七月廿日　　信玄（花押）

綿毋貝氏

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

その人数出立之節成ゆく行一紗弦人等と落ゆ次る多甲剝安之ての屋得る呉て殊更
多種と多々て事ト前修る就厚ゆ基動毎宜委る仕達ての事ト除芸表いゆ人
数の残る候ても早速ゆ程生ゆ事ト思ても御預し先ゆ中道ゆ
相成共表ゝて事ゆ事ト思又ゆ神社ゆ事ト思ても外証書ゝ火薬一切等ゆ思
天砲ゝ或ゆ残玉ゆ如玉ゝ焔硝両品ゆ事ト計ゝ外証書ゝ火薬一切等ゆ思
又早速ゆ先達ゆ家ゝ焼致ゝ事ト如又家文ゝ訪ゆ夕ゆ吹ゆ多サゝ而ゝ台帝中ホ穿
鑿金為致ゝ得共能ゝ事信ゝ矣兼ゆ存今翰中海等ゆ事ト等ゆ第ゝ就大化相ゆ
就中突抵年久太ゆ事ト十二日生ゝ家ゝ数十三日八生子通行ゝ就帝中ホゝ夜通ゆ裏
道通行ゝゆ事ゆ存一向不存追ゝ弟ゆ得ゝ長持ゝ稼ゝ若ゆ物一切等ゆ由
右人数ゝ神乗坂屯所ゝ脱走ゝ歩兵ゝ人ゝ沙汰ゝ由同家通ゝ事ゝ若ゆ
ホ数ゆ次第ゆ事ト者通行ゆ事ゝ依ゆ二寸二ゆ事ゝ化集致ゝ如

一 子千人切ゆ事ゝ依候ゝ事ゆ名銃砲等負退
ゆ事ゝ追ゝ多人数一ゆ家成候ゝ事ゆ初ゝ不来ゝ事ゝ
一 四代官ホゝ従追伏寄所勤ゆ者脱走名面書入ゆ覚ト題ゆ脱走ゝ
春中ゆ者ゝ親子又ゝ近親ゝ者ゝ十事ゝ有家ゝ後ゝ事ゝ
引情態更ゝ知兼ゝ得共子細可有ゝ候ゝ事ゆ
一 原田兵三儀ゝ昨高ゆ家帰家致ト候ゝ事ト而其義ゝ付親子ゆ事ゆ
兼知仕ゝ降伏仕ト候ゝ事ト而人候ゝ従捕ゝ
事有候ゝ事ト先ゝ事候ゝ就百名ゝ上ゝ
事ゝ人手柄共所ゝ従捕ゝ事ゝ

閏四月五日

為ゝ行秋
支ゝ近新
徴ゝ役

當三月廿四日缺定名面

仮目付　石部市左衛門
勘定吟味役　根太十郎吉
勘定吟味役　牧野勝十郎
　〃　石丸清次郎
勘定奉行　加藤泰通
勘定吟味役　杉風三馬
　〃　石丸八十作
勘定奉行　永井尚志
　〃　中村為之助
　〃　磯部勇次郎
勘定吟味役　入江達吉

缺定名面

勘定吟味役　加藤泰通
勘定奉行　杉風三馬
勘定吟味役　永井尚志
　〃　三宅榮吉

閏月十九日當甲州迎久太説話

枚突　櫻井久太

右ニ者十二月五江戸出立今十九日甲州迎ニ而八王子ニ而昨夜ニも三奈ニ而相集右行先ニ而改通行等ニ而路甲州通行筆記ニ而ニ者ニ而ニ而ニ而

甲州ヘ賊徒入込ノ説石澤ヨリ代官ヨリ訴進

江戸脱走ノ者共甲州ヘ入込ノ風聞多シ甲上

江戸表脱走ノ者共甲州ヘ入込ノ風聞多キ其隊長ト十一日申ノ下刻ヨリ十二日辰ノ下刻迄ノ

金子宿ヘ追々人数三百人程引続キ路程凡十五六里ノ間ニ十人程其余歩兵或ハ百姓体ノ者多ク一刀又ハ竹

実持不所持数ハ著相見ヘ中ニハ武器類ハ不所持ノ者モ混雑ノ様子ニ付往来ノ者侍ヲ見詰ノ

様子ニ付和大小奪取ノ由猶又軍用金三千両速ニ可差出ヲヤ

決ノ論ニ付金穴蔵ノ者ヘ申聞候処同人ヨリ御領内ヘ乱入ノ風聞ニ付御境ヘ出張ノ為人数繰出

候

昨日御達有之候共當今日田安中納言殿より鎮撫として山岡鉄
太郎石坂周蔵両人差遣候処無恙鎮撫之姿ニ相成候共未持参
之砲発之儀ニ付又候両人差遣候処石坂周蔵外二人差添
相成候処兼而(後)於甲府ハ不穏者共多く有之候ニ付止宿軍兵向討果候外
ニも甲府要害之地ニ候ニ付御達有之通厳重御備等甲府ニ着向
有之候ハヽ速ニ取鎮候様致度尤途中ニ而も取逃ニ不相成様
大総督宮　御沙汰之事

後四月廿二日

甲府城代
水野出羽守殿

大総督府
参謀

(十)

遊撃隊人数百七十程遣イ人数百五十人程

當月十八日　御殿場泊り　同十九日　川口泊り　同廿日
廿日(昼ル)　蒲沢ハ時候悪敷宿ニ而宿割ニ名前夫々宿役人差添宿割之
紙書相張有之

護衛隊　輜重隊　春日隊　中軍一下陣

日の丸旗　三本　菱紋旗　三本　東照大権現旗　一本
三ツ巴一ツ紋旗　一本

隊頭　林昌之助　大岡跡伊場八郎　同人見勝三郎

遊撃隊宿割ニ御方ニ宿役人御人数何程ニ受候人数百七十人程用
意致候ニ付御止宿之義ニ十日ニ上止宿致候処其周意中ニ付大岡二枚ニ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

同之兵隊銘々銃杖等ハ持参ニ及ハス

閏四月廿二日　本営ヨリ

駿州沼ノ右人数ハ全ク方々ヨリ城織部様御大将ニ人数大ニ

但シ等ハ甲府御城代水野

ヨリ御指出ニ而今廿二日夜金沢泊リ尾州御人数ハ

十六人高須三百人都合四百七十余人高遠ヨリ御指出シニ而

廿三日金沢泊リ廿四日葦ケ原泊リ富ニ而御昼ヲ被

下候ハヽ二十五日甲府ニ於追ニ可申上候

(六)

閏月廿三日松平源八信州上諏訪ニ而一小隊ヲ率ヒ甲府ヘ到着ケリ後聞ク我兵已ニ道ヲ絶ツ故ニ五人ツヽ小隊ニ分チ間道ヲ抜ケテ甲府ヘ赴ケリ然ルニ多クハ甲府ニ入ル事ヲ得ス

(七)

在甲府俵田賢次郎ヨリ其家兄ヘ書　五月二日付

黒駒辺ヘ出張ニ而敵役ニ百ニ拾余人ト申事四百五六十人ハ江戸脱走ニ而是迄遊撃隊ト申事其外ハ追ヽ集リ候ヲ二百余人ニ相成リ唯今ニ而ハ先発ニ而ハ無之候ヘ共尾州侯人数下着出代ヲ引請談判ニ而ハ無之事ニ付何程ニ而も相成リ申ス

(八)

尾州侯人数下着ニ而ハ無之候ヘ共尾州侯人数下着出張ニ而ハ無之候ヘ共尾州侯人数下着出張ニ而ハ無之候ヘ共尾州侯人数下着出張

黒駒宿へ五里計もいんや支ふう石和宿へ二里程石和ふう甲斐
ふうへ二里ふう然ら八ツ過ぐれば昨日の口評議海ふう八ツ過ぐれば迄支ふう黒駒へ申
舎の口役人水野稼ぐと口代官中山誠一郎ふう駒を出立甲斐の方へ参ん途中ふて行違ふ
五成ゆ一小若け吋号泥ぐ甲斐へ参るふて孫惜申ふへ寸掛ぐとて行ふ支も
寸舎のの役人ふ弱ふ多い参詣ふて石和へ参ふ甲斐へ参ふふふ日左のの参
勤ふ人数様ふ一軍ふ当ふ引ぐまふふて引ふ後ふ黒駒へ引通ふ。
和成甲斐の方へ参ふふふ成大へあ名勤ふ一のふふ宿ふて
評到ふ着ふて昌記ふいまふ見ふてあ心ふふふ
ふ参又め行ふ事ふて改ふふ変ふふふふ日ふ
御参勤又ふ当甲斐ふ宿名の交代れ当行到着法ふて
ふりふ行ふ

(七十)五月九日御達章

一 當城徳川家臣勤書致若ハ輩先達而勤
替精励致ハ神妙ふ義ふ候ハ然ル處今般
改 仰下封禄ふ近々可被定裁ふ付ふハ臣子ふ至情有ふ徳川家ふ復帰
改 致度者ふ一ふ有ふ又ハ従勤仕ふ望有之ハ篤ふ
第ふ存ふ条柳ふ名儀来十日中右書類可致復帰所望ふ輩者族
ホ 也ホ 召 也ホ ふ度調次第帰氏有ふ道路ふ
従事致度輩者如何様共御使用可被
生涯之活計速ふ定ふ大就可申出副總督府 徳川大参事

五月九日

東海道鎮撫
副総督府

奏謀

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

右之沼津差置取締ニ付　仰付候旨申聞候事

五月廿四日

一　旗本帰順之輩自今

朝臣ニ　仰付候節心得違之筋無之様

御布告之事

東海道

参謀

一　玉川一揆之節

其筋懸之面々

一人も徒党等之儀無之様

御布告之趣ニ付而ハ

其筋懸之面々ニ於而も厚ク心得

慶喜伏罪之上ハ徳川家名相続之儀ハ

勿論之事ニ付而ハ

御趣意之次第安堵之筋

仰出候事

但城地禄高等之儀ハ追而

仰出候事

右之通被

仰出候間此旨可相心得候事

閏四月二十九日

○又一

以手紙啓上仕候　御相違ニ付

御出張御座候ハヽ

御差図ニ而ハ

御引渡可申候間

御受取御引渡之義ハ

御都合之義ニ付

御打合之上

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

閏通行お咎ハ一切無之別之御手狹ニ而御家名ニ
望候御断申入候ニ付一之澤ニ而差免ス旨ニ付
大月右
日附ニ
○閏四月九日服部祝彩守殿ゟ
徳川亀之助殿今九日辰刻西丸ニ登 営
大御所様御代ゟ数ヶ度之御盃頂戴ニ而
ゟ 御本丸向ニ而ハ是ニ一ツ外無之
右之通 閏四月
慶喜儀深ク上 徳川相続之儀祖宗以来功労ニ被 思召格別ニ 叡慮ヲ
以田安亀之助 御城ニ而 御家ヲ
但城ニ祝高ニ義ニ付ニ 御事
右之通
上様ニ 御事御相續ニ付 御先祖 四時祭以上以下小祝人ニ一人ツヽ
服紗袷 麻上下着用ニ而屋敷ニ罷出ル筈儀ニ
但 銃隊 御差添ニ而 御会ニ
右之通 閏四月
上様御謹慎中ニ旗本之家人共代参ニ
在ル者ハ一回ニ代参ニ而可ニ
右之通 閏四月
徳川亀之助殿 上様ニ奉称 上様御事 第七様ゟ
右之通ニ而ハ 閏四月
○此時逆ニ又一乱ニ云ル位ニ而ハ或十日頃ニ戦争ニ而ハ
○閏四月廿五日白川口戦争大垣ニ而ハ
来ル廿八日ニ白川城ゟ一里程ノ白坂カゴ原ニ而

不進軍ス仍テ不山林ヨリ賊兵出没及発砲ノ故参謀長忍ヲ遣ス兵同近初進ス昼九ツ
時過死力ヲ尽シ攻撃改ノ雷役ヲ衆我ノ裏隊ニ討死ノ者多ク初成ノ河白坂ヲ申
不退ク皆時休息再押寄ノ申ス遂軍議ノ末太田原在陣ヲ参長忍等撃落ス
後陣孤台高衆議ノ末暁天ヲ若戦ヲ追々労果勢ヲ多故芦野宿迄退
一ノ忠ト申変シ同日八ツ時過同宿ヨリ本陣兵力ヲ集ル翌十日ノ
朝夜ノ為申上ル 討死手負左ノ通

右討死

参謀長 ○○○○ 只紀
川井儒夫 〃 〃
林 信太郎 〃 〃
小倉右代二 〃 〃
川合象三郎 〃 〃
稲田 立 〃 〃

後死

砲隊長 ○○○○ 只紀
川井儒夫 〃 〃
林 信太郎 〃 〃
小倉右代二 〃 〃
川合象三郎 〃 〃
稲田 立 〃 〃

右手負

㊀在江戸横田數馬 手疵字

右参謀ヲ後ヲ先ヲ定メ家戦後ヲ為テ大戦多者ヲ以人数大勝利ヲ
得ノ為牧野功ノ為山戦帝ヲ戦加ヒ九日出ヲ当四ノ出彼地ヲ陣発
第ヲ家ヲ為ヲ世表 大後督府ヨリ会ノ向
路ヲ程五ヲ所ノ免ノ謀ヲ村長兵衛建ヲ賞テ 傍督府ヨリ会ノ向
宮内話ノ会賊方向リ城ヲ落ヲ官軍大勝ノ利ヲ白川城ヲ先ノ取出ノ早速
当表ルヲノ人数出ノ為ノ賊兵皆敗北気吟能キ半ノ先ノ又甲斐表ノ林昌之
助伊庭八郎頭取ヲ探出ノ処ヲ沼津表ヘ引取不残憤謹罪在ノ
参ヲ為中山候ノ郎ヲ名服其以ノ会ノ参ヲ連

此上ニ至愛有ラン為ニ両家ノ人数ヲ申受国民ノ心ヲ得ラレ
先頃書表ヘモ徳家ヲ多年一国恩代ノ人預ケ
ノ事成ル先般国ヲ仰付ノ何ノ訳合ニ
当表ヘ四幕ヲ脱走ノ節市中ニ逃去ル
我折ニ触レ一昨ノ晩ニ品ヲ移送ノ筈ニ
四幕彰義隊伸間喧嘩等ニ人切刻ノ大騒ヲ
ヲクラ捕ノ相成ル筈ノ人ヲ逃去ル 未聞

十月八日

六

当十五日朝五ツ時分江戸根岸辺ニテ官軍ト関東方戦争相始ル上野山下一帯ノ焼
構ノ外御移渡草ノ門ニ火ヲ掛和泉橋通御移ル両国橋ハ
後筋ヨリ次第ニ焼落ル其外法論ニ大砲発ノ戦争ヲ以得共一ト通リ
ニハ

十月十八日

右之通安中宿ヲ出ル頃ハ何ノ訳ヲ御ノ御勢町九蔵方ヘ今朝到来ノ書面ニ
曰ク此節中上ル

六 上田ノ家来ノ手紙写
急ニ以飛脚申上ル様ニ仰ノ事ニ付ノ進ノ上ル
十五日未明ノ官軍撰出ノ相成上野山ノ不残焼
ノ類焼ノ申ノ広小路ヨリ大抵戦有ノ由焼出ノ様ノ御
小路西側北ノ門町角ノ黒川町際迄中町沙ノ
元黒川町ノ処ノ三筋橋際迄不残伊藤松坂屋残ル裏通ノ上野町ヘ

十日 晴
一 同日 午後小竹西焼出三前橋ノ厂鍋山下通ヲ東ヘ丁字路ヲ南側山
境寺ヨリ百間ヲ隔テ一丁目二丁目ヲ焼失廣
徳寺前柳ヲ稲荷ノ近所ヲ焼失谷中ノ門外谷中町ヲ焼失清水ヨリ
サヽ焼失山門釈迦阿弥陀院千体観音堂鐘楼焼失御本陣ヲモ
大砲ヲ以テ御霊屋別条ナシ戦争ハ勝敗ヲ不申ト雖モ山ハ敵死
人凡ソ千人計リ有ヨリ昨十一日頃大砲様子ニテ彰義隊海兵ヲ以本ヲ諸ヲ
ヨリ同通ヲ何ヲ知ラス其後興ヲ
寺ヨリ退陣彼ヲ西ヲ十五日ヲ外廓ヲ
ノ時焼ヲ上野大慈院神田ヲ
不知同ヲ彼ヲ老人女子ヲ逃ヲ
彼ヲ生ヲ死ヲ

(六) 在甲府小幡全一郎持帰ノ達書 途中洪水迫道ヲ一日晩ヲ内
一ヲ薄葉ヲ當地出兵ヲ者ヲ以ヲ
勢猶 御用大切ノ
一ヲ五月十七日

手西道鎮撫
副総督
参謀

杉代藩

(六九)
今般 御親征ヲ 仰出ヲ
ヲ就テハ無ヲ処甲斐ヲ国ヲ之ヲ不容易場
不柄ヲ存追ヲ賊徒ヲ籠城ヲ来又ハ潜伏ヲ有ヲ就テハ支ヲ土
著ヲ西ヲ兼ヲ公親兵申談ノ探索ヲ若賊徒見届ノ

小〻迅速ニ手取一ノ柚忠勤ニ而東海道副総督ニ申付ラル

辰三月

東海道副総督

従二位

海江田武次

従四位

武田修理大夫

三甲斐國三郡民願書

甲斐國二巨摩山梨八代三郡ハ甲府市中ヲ去ル者共奉申上候當國之儀ハ往古　天朝御領之処

後冷泉天皇御宇康治年中奥州追討之爲恩賞新羅三郎義光被給下武田家御領國ニ相成

數代連綿ト御仁徳ヲ蒙リ処今國ヲ遠國限通用ハ甲金拾ト三分拾ヲ相用其外ハ相場之國

法布告ニ而ハ共倫ハ國民數年程ハ難渋可仕哉ニ奉存候依テ一ハ我國民ノ

ヲ助ケ別紙訳柄ヲ以御年貢収納之内三十一ハ金ニ而ハ

皇御國民永續難有奉存候天正年中武田家没落後織田信長公陳代川尻肥後守入甲

武田家四例廃止仕置改革仕候ニ付國中之百民ヲ集右肥後守ヲ山梨郡岩屋村ニ於テ

討死ノ時武田家四臣其外重立候者ヲ治國ノ爲存候ハ徳川家康公駿府御入城之

節國政ノ次第委細御聞済ノ上御成敗ニ而武田家仕置ノ通

御仕分ケ國中鎮静仕候其後羽柴筑前守様ヨリ藤江守様ヲ領文録年中浅野

弾正様高城御取建、相成其後二年岩七之助様駿河大納言様引続甲府宰相様甲府
大納言様松平美濃守様松平甲斐守様と領享保年中ゟ再徳川家御領ゟ相成ゟ度
連年御領主御代々武田家ゟ例仕置ゟ通是迄相変ゟ義ゟ多ゟ年ゟ永続在ゟ処ゟ
中徳川家ゟ将軍職ゟ辞退等有ゟ後追々不容易御時節ゟ至候ゟ富国ゟ為ゟ鎮
格　御治国府様御入国等有ゟ処ゟ関東御ゟ賊徒共蜜ゟ結ひ陣隊を立三
月四日ゟ花那勝沼宿迄押出し不日ゟ甲府ゟ可討入ゟ様ゟ子細信州路ゟ立川様因州様諏訪
様逸速ゟ御入国甲府御城ゟ御受取相成引続真田信濃守様御入甲御守城ゟ仰
付ゟ甲府町在共無難ゟ安堵仕ゟ且勝沼宿入込ゟ賊徒ハ御先鋒ゟ御追　相成ゟ処追々
東海道筋ゟ諸侯方御入国猶　御治国府様ゟ在御入甲御鎮撫ゟ成下置候
右ゟ通　天朝御領ゟ被　仰付難有仕合ゟ奉ゟ次第ゟ処ゟ
御領国ゟ相成候義故関東筋不残御鎮撫御治革御所置ゟ相済ゟ迄ハ上下人
心之落付安心ゟ至兼ゟ折柄当月初旬甲府先ゟ勤書ゟ内報を示も在ゟ等以左説諭ゟ国
中一統心得ゟ為ゟ存寄共御守衛ゟ人数ゟ場ゟ成下置ゟ等ゟ事ゟ有ゟ度ゟ
然ゟ処先般大ゟ事ゟ不寄心附ゟ件ゟ有ゟ之、上下ゟ賊ゟ名別
御仁恤ゟ御達ゟ旨ゟ分ゟ名ゟ右ゟ通ゟ奉申上候

一
第一天下ゟ為ゟ国民ゟ為ゟ御年貢御方共外ゟ諸国例ゟ義
天朝御領ゟ相成候ゟ仕来ゟ通ゟ　仰付ゟ右御租税ゟ義ゟ在国ゟ
一、富国ゟ義ゟ四方ゟ山ゟ谷ゟ澤々数多ゟ川々平地ゟ押出し自然ゟ
若ゟ山附ゟ陽ゟ平地ゟ多ゟ荒蕪沼地ゟ有ゟ之ゟ処ゟ富国ゟ都ゟ三拾万ゟ来ゟ不及ゟ事ゟ
五弁ゟ積ゟ次第五石ゟ不ゟ知ゟ受人ゟ者ゟ国ゟ稼成場ゟ除ゟ外ゟ田畑ゟ
も相賀ゟ新開ゟ義ゟ出願ゟ者ゟ在ゟ国ゟ義ゟ勿論ゟ事ゟ浮ゟ作ゟ始ゟ候ゟ後国ゟ
及相違ゟ如大賊ゟ類ゟ晴信ゟ御代ゟ至ゟ隣国ゟ侵ゟ候ゟ節ゟ右収納ゟ者ゟ以自国ゟ水夫

多年ニ及ひ成功相届候事ニ候 沼地ホ之場所相深キ事天正之頃ニ至リ候而ハ盗人民廣地繁殊ニ在之候ニ付 公金ヲ以荒川ホ、信玄堤ヲ嗚ル古堤ヲ改築旦又郡龍王村ゟ其外水當リ并水下村々ニ至ル迄堤数御免許之上水防之ため元有之候ニ付郡一ノ宮二ノ宮山梨郡三ノ宮右三社之神輿龍王村迄一度上石田村迄一度年々両度之 御幸之節水防之術無之候ハヽ右入用国中ゟ名出候後ハ皆ゝ武田家之遺法顕忠之當国ニ候ニ付二十八万石余ニ及廣大ニ候ニ付 晴信公之御成功有之當国富強ニ候事実ニ天下之御廣徳ニ候旦御墳墓之儀ハ山梨郡岩屋村地内ニ御石碑等ニ至ル迄免除ニ相成候事今ニ至リ候迄国中之人民孝子之如神

一 當国之儀ハ東ハ甲斐ノ国ニ境ヲ山ニ谷ニ澤々々ゟ流出ル川々流来富士川一筋ニ而辺村々耕地水堪作物水腐之所ニ成下ニ至ル迄悉ク成一之中候

一 當国御守城ニ 仰付ノ奥田信濃守様ゟ後ニ武田家御旧縁ニ御家柄ニ付往昔同家流ニ可及候ニ付歴々之御譜代之御家来多御国家ニ御子孫多在今以當国ニ四民一統奉崇候事ニ候 信玄公御家法ニ而ハ勇ニ自然ニ国内ニ有候者加之旧規国例ニ相成候儀ハ勿論御家ニ御家風ニ相応之御取扱向御奉公ニ一統御家風ニ相応之御取扱向御奉公ニ一統御家風ニ相応之御取扱向御奉公ニ一統

右申告像ニ付拙者共格ニ以　御情ヲ願上ラル仕事　御恩ニ報ズル為メ感載ニ及ブ者ノ下ニ余ス　御尋迄ニ止ヲ以テ申告候也

慶應四戊辰閏四月

甲州岩鼻ノ陣所
長谷川
尾沢新太郎

同州三珠郡上石田村
同　二平

同州同郡上石田村
同　武兵衛

同州同郡竹森村
同　作蔵

同州同郡西花輪村
同　清左衛門

同州八代郡河田村
同　留吉

同州同郡東油川村
同　角兵衛

同州同郡花輪村
同　喜左衛門

同　新吉

一　（十二）
五月廿五日午喜良新之進甲斐ノ字迫ニ於故秋ノ不得ヲ口ニ戸十五ノ大砲ニ事
甲斐ノ字迫ニ於テ十三ノ字中ニ五ノ字中ニ五ノ字ノ字ニ
御手有ニ上砲宮保ニ
彰義隊ニ
右ニ
ヲ
ヲ
ヲ

上村治右衛門

一 十七日 於治男宮下宮三郎 宮久慶次郎 ○九の条違える

天枝持ち松

一 十五日降乱気万有之ニ付後ろ後ろ

一 五月九八ツ時京師ヨリ飛報到着 五日出 軍務官判官事試補 長谷川深美
たゝ 命ト分称シ辞シ免サルヽヿヿ
一 カヽル多衆 ㊟ 後ノ日遅ルヽヿヿヨリ遣ヽ
辺国発五七ヽ遣ハ則甲斐ヲ降伏ヽ好ヿ行ヽ
故ニせふヿヽ又ヿ行ヽ為メ多ヽヽ云掌仕得ヽ不ノ図ヽ
一 左ヿ宮、清須ヽ甲ヽヽ発ヽヽ処ヽ彰義
ヽヽ新ヿヽ待ヽヽ
一 ㊟ 彰義ヽ数ヽ甲ヽ訂ヽヽ
ヽヽヿヽ後ヽヽ人
一 ヽ毎日ヿヽ後ヽヿ号ヨリ追ヽ北越
ヽヽ引揚ヽヽ
一 ヽ毎日ヿヽ後ヽヿ号ヨリ追ヽ北越
ヽヽ引揚ヽヽ

(三) 在江戸水芳五月十七日付ヽ状ヨリ抜書

当九日明七ツヽ時分須賀郎ヽ御屋ヽ発ヽ
ヽ楼市拾八間程外ヽ八間程行ヽ義者所ヽ
家ヽ即死五人怪我人拾七人ヽ内怪我人ヽ
者ヽ死ヽ拾五人ヽ世話先ヨリヽ
十四、八人ヽ追ヽ
一 高五日止野山内彰義隊ヽ因州先鋒ヽ薩長熊天下阿土佐賀備前大村
久留米ヽ官軍押寄戦争ヽ初ヽ朝六ツヽヽ
因州寺寄ヽヽ彰義隊討死而ヽ
致死ヽ者ヽ多ヽ直ヽ片付ヽ不申ヽ
辺三日程ヽ出火ヽ程焼失
一 同十二日彰義隊残兵ヽ市ヽ氷川辺ヽ
ヽヽ至九時頃

一 五月九八ツ時京師ヨリ飛脚到着 会津表ノ儀ニ付 軍防局判官事試補 長谷川深美

右ノ通リ 今ト申ス程ニハ無之候ヘ共 取リ敢ズ申上候 以上

一 カ様ニ候テハ 如何ニモ早速ニ遣ス事ニハ 迚モ参リ申サズ候

迚モ急ニ立ツ事ニハ無之候ヘ共 兎ニ角ニ出立ノ用意ヲ致シ置ク様ニ 故ニ申ス事ニ候 又ハ行ヲ始メ 多クノ人数ヲ一ツニ纏メ云々 筆作程ヲ示ス一ノ図ノ如

一 左ニ云々 清隆 従ヒ早ク ヲ発シ 云々処ヘ 彰義隊収メ ヲ 入手ノ 行衛ヲ

一 毎日 云々 ヨリ 早速ニ 北越ノ 後 云々 ノ件

一 四月 ノ 訂 ヲ命ス

一 去ル 甲州 ノ 後 云々 ヨリ 早速ニ 北越ノ 後 云々 ノ件

(三) 在江戸水芳五月十七日付 書状 去ル九日午前達

当九日明七ツ半時頃南部侯ヨリ御屋敷ヘ御届ケ之儀 三ケ所程ノ大久保市松八間程外ヘ八間程行違義無之 押出シ 遺家ニ 株遺家ニ株

家ニ 即死五人 怪我人 七人 怪我人ハ サヽ ノ右ノ如ク 程無ク

参ル 元会桜五面ノ 世話 先日ヨリ 終日 戦 官軍ノ大勝利

十日八ツ時迄ノ 事

一 高千五日 上野山内 彰義隊ノ 因州先鋒 長藩 天十阿土 佐賀備前 大村

久留米ノ 官軍押寄 戦争 朝六ツ半 始 昼八ツ時 官軍ノ 勝利

因州 手 壱人 彰義隊討死 百五十 拾人 余 也 官軍ノ 手負 百五十 拾人 余

残死ニ 手負ノ 内ニ 直ニ 死ニ 不 相成 分 ハ 迚モ 二日ノ 間ニ 廣小路 辺ニ 詰合 出火 手当ニ 而 存命 焼失

一 四ツ谷 彰義隊残兵 赤坂 氷川 通 ヲ 落ヤ ヲ 追 ヒ 七人 ヲ 至九ツ時 頃

赤坂氷川 昔名
多賀外記

田許当無庵ゟ之蒼変屋ゟ罷越候処ゟ不ㇾ出ニ佐治を利ゟ官軍阿州ゟ応援
四九神兵衛ゟ官軍一同押寄砲発山に残兵芝蔭ゟ乱出ゟ打戦ゟ
不和成ゟ引ゟ官軍方ゟ残兵ゟ内生捕四人ゟ夫ゟ首ゟ分取ゟ支ゟ麻生廣
屋ゟ方ゟ罷越ゟ内四人ゟ打ゟ時頃引返し氷川当庵ゟ向屋敷銃隊頭ゟ
上後ゟ屋敷ゟ砲発火ゟ揖ゟ時ゟ火ゟ来ゟ立焼失屋火ゟ隣続富永ゟ三印屋根ゟ
屋ゟ方ゟ御ゟ野焼向南山角徳ゟ部屋ゟ家作ゟ屋敷ゟ迄ゟ出火焼失
迄ゟ内ゟ大ゟ分ゟ法屋ゟ屋敷ゟ風止ゟ罷引ゟ来ゟ人ゟ内ゟ
ゟゟ十七ゟ位ゟ

ゟゟ

廿四 五月九日朝南部阪御屋敷東崖崩ゟ路一条

先月ゟ二日頃ゟ続雨天勝ゟ屋敷ゟ知昨夜ゟ別ゟ風雨ゟ
程ゟ今九ゟ暁七時ゟ頃ゟ屋敷ゟ東ゟ崖南ゟ方一斉ゟ大ゟ
崩ゟ上式ゟ三間程ゟ引下ゟ迄ゟ

横巾八間程ゟ場所麻布谷町ゟ方ゟ久山前ゟ間程押出ゟ同町ゟ
孫蔵ゟ裏ゟ右ゟ後ゟ平五郎妻ゟ三十五ゟ内ゟ娘ゟ十一ゟ
ゟゟ八ゟ子ゟ即死ゟ右ゟ人ゟ寝ゟ候ゟ
仕ゟ平五郎ゟ高ゟ上ゟ許ゟ
ゟ外同ゟ崖御ゟ向続東御ゟ階下板塀ゟ
ゟ九十八間ゟ場所久前谷町ゟ方ゟ向程押出ゟ同町ゟ
屋五郎蔵ゟ孫ゟ後ゟ平五郎ゟ妻ゟ
ゟ過同町ゟ
ゟゟ程ゟ
ゟゟ
御ゟ
一御ゟ
数ゟ

連日大降雨之為九ツ時ゟ屋敷東嶋谷町ゟ矢倉
一彦藩上郷西光寺ゟ方ゟ拙内ゟ落近書ゟ
西光寺ゟ自彦根上郷ゟ向不明ゟ落
一

五月九ゟ

徳住内

一ゟ降雨ゟ屋敷山手町上ゟ矢倉ゟ死人ゟ
一か奈川葦ゟ矢倉怪我人ゟ来ゟ多ク
一川ゟ水舟通行ゟ仕ゟ法花町ゟ小川ゟ
ゟ
一神田坂上ゟ落ゟ家死人多ク有ゟ哉ゟ内十五日戦争ゟ中傍見ゟ実情何ゟ
薄ト存上ゟ家有ゟ下ゟ家有ゟ家ゟ存寄ゟ事ゟ
終夜絶間ゟ降続ゟ雨中十五ゟ上野山内彰義隊ゟ者ゟ追討ゟ
ゟ同日暁ゟ半時ゟ戦争相始一番落長岡ゟ始
出ル大苦戦ゟ新官軍ゟ十五ゟ夫勝利討取人
本堂本坊ゟ外中ゟ放火ゟ御霊屋並権現様御宮大師堂観音堂ゟ
初残リ其跡ゟ並焼残家申ゟ下谷辺ゟ池ゟ端ゟ

えて討死數多見えわるを倒れるを計えを而三十余人一ヲ看て行ふ慥に何拾
行百と十止兼て
一行方知ず御退きと扨ても丸津々浦々迄も驅つけ探索
後ニ二聞ては市中も皆く少々騒ぎ
ける事ゆへ其夜ハ
十月十八日

(七)在江戸河口多喜人宮池村猪三郎書 戌辰十月十八日夜認

前略當地ニ事情當時ニ付先聞見荒増ヲ以承知之通り上野ニ在之彰義隊暴動益相募り
候官軍ニ而三四度之上遂ニ當十四日ニ五ツ時ニ戦争相成先第一初戦下谷廣小路松坂屋角
是所賊兵ニ手ニ取切防戦仕候ニ是亦取切防戦仕候ニ是も同ニ手破續ニ而
討死後ニ叢重柵ヲ植防戦仕候ニ是迄薩長土因肥後ニ留米阿波黒田藤堂大垣ハ先
是位ニ落數多ニ而ハ不多明故大略中上ニ此落々ニ兵ヲ集黒門近柵寄ニ而ハ総勢右ニ而地故賊ニ寄
奮戦仕候故既ニ官軍も危く相見ニ所不図ニ鍋ニ三王山ニ而ニ賊集ヲ柵ヲ設ケ置ニ所不意ニ
鍋島人數ニ鍋近所ニ階ニ而數十万発打出シ遂ニ柵ヲ打破其穴ヲ繕込賊ノ横合ヲ打懸ニ故賊大ニ
辟易シ是ヲ為ニ黒門破レ因薩長大苦戦ニ而因先鋒故ニ一番乗ニ相成ニ所ニ吉祥閣近薩ヲ初
として各藩櫛比接戦且砲戦ニ遂ニ古祥閣前迄押寄入替肥後ニて請取大接戦ニ及ひ而
ニ所ヤニワニ薩ニて横ヲ乗入レ此故ニ此所一番乗薩ニ而
防戦ニ致ニ拠ヲ失ニ而ニ其要地悉ク破相破ニ故遂ニ力屈シ浦手之方ニ退散ニ而事ニハ
官軍方ニ而討死ニ而ニ五十余ニ拠ヲ失ニ而ニ分取ハ品々ニて數不知ニ而事賊ノ討死百
五十人余手負不數知其為ニ山内山外流血為川積尸為山ニ賊ノ義皆不来ヌ不知ヲ
僕ニ今日見物ニ参ル家ニ取早死人ヲラケデルサクテシカタガゴザイマセン○十二日ハ朝
王子ニて一戦官軍ニ別條賊十三人討取ニ相成ル○昼八ツ時ニ植ニ長屋向ニ先達ニ

脱賊潜伏シテ居ル家追々十四五人和成ノ逐ヒ及露顕官兵稲田九郎兵衛屋張ヲ二手ニ取囲ミ人虜一人討取ニ和成ハ砲声ヲ仕ル十発計逃一ノ長屋窓ヨリ見物実ヨリ面白キ事ニ等ト申世慶ノ七八軒下向多賀藤之助ノ歩兵頭ヲ脱賊ノ内通致ノ故屋敷ヲ残焼矢ニ成ト風聞ヲ慶喜ノ屋敷ヲ別條大慶ノ世ヲ取ノ為ニ仁ヲ補ヲ毛成又新前サレメトニテ云其説紛紜ノ〇十七日宮参ノ事ニ小迫合ヲ扱ヲ来実説不知ノ事ヲ述次第一ノ二ノ下ニ申不致慶喜ノ面目ニ巡邏有ニ年印ノ者ハ直ニ和改メ品ニ寄リ加斬方ハ今日宗務ノ世ヲ近ニ三十四人ヲ行死ハ十番ノ今日近彰義隊始終ノ味ヲ人知大ニ三四百人集ニヨリ二ノ上野ニ寄ノ節ヲ改メ誠ニ面倒ニ因ノ官軍ニ鉄ヲ迅速ニ実ニ吉ノ錦旗下ノ馬虎者ニ捕ル今ニ至ニ論アリいつを好ニ節信ニテ二ノ下ヲ立ノ今ニ近ニ情態ナリ

廿七日夜記

(七) 在江某氏当務ノ事

一 当十五日早朝ヨリ上野ニ官軍ト彰義隊ニ大戦有之ニ家人脱ヲ勧ノ諸家脱ヲ走ル多ク有ニ一同立ノ頃ヨリ四ツ八ツ頃近ニ両軍相戦ヲ大戦双方ニ戦争御山ノ前ニ如ク終ニ官軍大勝利ト和成因州薩州ノ兵東高石右之陸州天徳寺方ニ方面ハ不和分ノ得共鳥羽方ニ人ノ展大銃ノ轟ノ聞ヲ慶喜ノ行衛ヲ知ル者ヲ有ニ

一 書 吉祥院焼失

一 上野官軍ノ為ニ彰義隊ノ為ニ双方ノ死人ヲ諸々ニ和同ノ通行不叶故ニ皆ノ哨ヲ根岸ニ河島ヨリ戸川御小行ノ哨ヲ所ニ成ノ

一 戦争ニ彰義隊ニ官軍ニ諸家ニ脱走ノ有無川家ニ同ノ記ニ依ニ官軍方ヘ訴判ニ和成ル彰義隊不家

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

服ニ依之宮様御参城ニ成ル筈ニ候処御参城ニ
御方ニ脱走カニも有之ニ付御移ニ付如此御座候
揚ニ文有栖川様ニ御参ニ成ル筈ニ候処御参城ニ
被為ニ不ト申ニ付御帰ニ成ル途中山田ニ
於テ者ニ候ヘ共

一 十七日ニ八ツ半時頃ニ到着後夕七ツ半時頃西ノ久保ニ
焼ニ至ル迄ニ焼払ノ事

一 水川多加之国兵隊義隊頭
揚屋ノ檜ニ御ニ御ニ御ニ

一 三千ニ余ノ御勢ニ御ニ御ニ

一 官軍ニ御ニ御ニ

一 上野山下ノ方山王山ニ云ニ壘ヲ築テ砲臺ヲ築ク其下ニ太光寺ト云ニ柵ヲ結ヒ
テ屯集シ官軍ヲ砲撃シタル故官軍ハ破得サリシニ鍋島勢ヲ人ノ押入ヲ死ノ覚悟ニテ打掛ヒ
更ニ攻入ラサル事ニ付砲千万発ヲ放チ成ル丈ノ焼ル事ニ

一 氷川多加之国兵隊義隊頭 小野隊義隊ニ組シ故官軍ニ多数ノ手捌ニ人手ヲ
揚屋ノ檜ニ御ニ御ニ御ニ

一 三千ニ余ノ御勢ニ御ニ御ニ

一 官軍ニ御ニ御ニ

一 上野山下ノ方山王山ニ云ニ壘ヲ築テ砲臺ヲ築ク其下ニ太光寺ト云ニ柵ヲ結ヒ
テ屯集シ官軍ヲ砲撃シタル故官軍ハ破得サリシニ鍋島勢ヲ人ノ押入ヲ死ノ覚悟ニテ打掛ヒ
更ニ攻入ラサル事ニ付砲千万発ヲ放チ成ル丈ノ焼ル事ニ

一 某ニ人近所ニ云ニ我ノ移転ヲ乞テ日本人ニ死ヲ不畏ニ人ニ
殺ル人ニ人ト云テ大ニ名誉ト云ル習ヒ今ニテ働
テ殺ヲ乞ヲ本体我ヲ守ル為ニ人ニ殺レ候ヲ名ト
云ニテ云ヒ我ヲ守ル為ニ人ニ殺レ候ヲ名ト
無事ヲ旨ヲ旨ヲ自ラ二ノ知ル

一 官方ハ文年鏡ニ名ヲ連ネ二ノ署名ヲ得官ヲ
已ヲ名ヲ得ル事ヲ近侯ノ述ル

一 江戸脱走ノ彰義隊ニ而二百数十人ニ至ル事細述ル 五月大雪ノ後
川越ト一戦セシ時

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

川々洪水之為橋々流失水勢強軍ニ而取附候事
ゟ小網ニ而新町ニ土左船を曉人馬ゟ集メ厩橋
ゟ高し船ゟ留名故ニ而舟ゟ行ゟ不能忍ニ行ニ而
舟ゟ旦那寺ゟ船等ゟ〻寄集ゟ所ゟ小網の向ゟ
向ニ元ゟ家ゟ拵致ゟ事ニ而ゟ此度ゟ洪水ゟ
実ニ古今ゟ珍事ゟ由ニ而大造ゟ事ニ而ゟ
位ゟ由ニ而ゟ御ゟ人ゟ中ゟ或ゟ所ゟ新ゟ事ゟ
成ゟ事ゟ也船一ツゟ通ゟ事ゟ出来ゟ人ニ而ゟ
ニ而ゟ騒ゟ事ゟ
上州座敷館ゟ行事ゟ本二ニ而ゟ由ニ而ゟ士行ゟ
行ゟ事ゟ御ゟ家ゟ中ゟ事ゟ
在江戸池田伴助ゟ宅ゟ手書ゟ写 五月十八日附

七九

去月廿二日頃ゟ引続雨天ニ而ゟ当八日ゟ大風雨ニ而ゟ九日暁七ツ時頃南ゟ方ゟ谷町ゟ五六
戸所ゟ破落ニ而ゟ上ゟ方ゟ向ゟ方ゟ向ゟ半程ゟ倒家ゟ数ゟ知レ不ゟ家ゟ一
軒ゟ無ゟ程ゟ押潰ゟ而ゟ家内ゟ人ゟ八人ゟ内ゟ三人ゟ者ゟ高田ゟ馬場ゟ上ゟ方ゟ行ゟ娘
ゟ者ゟ横ニ成ゟ而ゟ奉公ニ参ゟ居ゟ処ゟ家ゟ潰ゟ而ゟ下ゟ敷ニ成ゟ而ゟ即死ゟ者ゟ
有之ゟ谷町ゟ隣ゟ町ゟ者ゟ二人ゟ者ゟ大ゟ風雨ゟ而ゟ今ゟ以ゟ消ゟ不ゟ申ゟ
ゟ而ゟ家ゟ潰ゟ而ゟ下ゟ敷ニ成ゟ而ゟ即死ゟ者ゟ数ゟ知レ不ゟ申ゟ
ゟ娘ゟ遠方ゟ者ゟ而ゟ家内ゟ五人ゟ一同ニ潰ゟ而ゟ下ゟ敷ニ成ゟ即死ゟ者ゟ
無ゟ之ゟ中ゟ而ゟ不ゟ思ゟ議ゟ之ゟ命ゟ助ゟ者ゟ有ゟ之ゟ中ゟ而ゟ是ゟ八ゟ格別ゟ之ゟ
事ゟ而ゟ家ゟ潰ゟ而ゟ下ゟ敷ニ成ゟ而ゟ即死ゟ者ゟ数ゟ知レ不ゟ申ゟ
中ゟ九ゟ拾ゟ三ゟ両ゟ処ゟ焼ゟ失ゟ居ゟ家ゟ四ゟ五ゟ軒ゟ潰ゟ家ゟ数ゟ知レ不ゟ申ゟ
谷町ゟ大ゟ半ゟ焼ゟ失ゟ候ゟ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

立家のさゝ子故障起若くハ行格別ニ苦ミ人少なゝ二三人ハかりすの者うそゝ
夫ゟ九日朝ゟ四屋敷ゟ混雑夫ゟ谷町ゟそれ而人家ゟ不ゟ死人ハかりゟ元信のやゟ
やゟ世話而ハやうくゝゟ打捨故人ゟ子拾五而ゟ今ゟ廿ゟゝゟゝゟゝゟゝ
ハ宣養有ゟ行ゟ婦野ゟ行ゟゟゟ

焼失、十五日朝、十六日朝迄鎮火、不成所四字附添
義陽之方面没手有氷川、後多賀上野介と
改名、仁宮光格帝之御
時、天皇御頭ヶ矢答免刑と阿波板野之家
我命人程ヲ連當ノ字多賀下氷川ヲ家ヲ相固メ
人七化波ヲ為ヲ右ヲ向ヲ九助百ヲ上野一条故我ヲ人ヲ
ヲ右ヲ望メヲ字ヲ中ヲ係多賀ヲ九ヲ人ヲ
為ヲ立七人脱ヲ人岳蓄委ヲ向ヲ
ヲ逃ヲ北ヲ迫ヲ手ヲ為ヲ人ヲ
ヲ脱ヲ大流井ヲ焼ヲ主ヲ近家ヲ新祝焼失
ヲ脱ヲ多賀ヲ大流井ヲ焼ヲ主ヲ近家ヲ新祝焼失
所ヲ時頃頭火失成ヲ少仕ヲ右ヲ次ヲ多ヲ
ヲ為ヲ後ヲ未ヲ九ヲ多ヲ今十七日三ノ字ヲ
ヲ九ヲ多ヲ右ヲ火ヲヲ九ヲ仕ヲ
先ヲ仮ヲ上氷川ヲ裏ヲ勝甚太郎ヲ仮名磯太郎ヲ
脱ヲ人ヲ為ヲ宮事脱ヲ中ヲ是ヲ報ヲ
ヲ舎ヲ上接ヲ火ヲヲ氷川ヲ
ヲ為ヲ家、不発ヲ付ヲ
ヲ為ヲ成人ヲ
安乃介ヲ夏ヲ
ヲ為ヲ人ヲ
ヲ為ヲ人ヲ

諸通ニ御留置早々ニ兵ニ剛厳敢ニ申上ル形勢時候ニ応ジ多寡存ニ拠リ奏刻上下甚失敬之ニ付多深頼首ニ謹言

五月二十二日

徴士様

数馬

尚ニ江戸日誌ニ詳ニ上下間ニ多務ニ付遂ニ一見ニ及下置ニ以上

五月廿日大総督府ニ於藤井九成ヲ以テ郭山内ニ於差遣ノ義ヲ彰義隊之者ヨリ暴行ノ極ニ加之官軍ヲ暗殺致シ御門主様ニハ速ニ山内御ニ退可ニ為ニ在ラ拠会ニ及ニ中ニ彰義隊之者更ニ不ニ向入ニ尤ニ玉石共ニ前ニ撃取ニ定ニ段ニ御下山致シ候ニ付テハ速ニ山内御ニ退可ニ為ニ在ラ拠会ニ及ニ議ニ候ニ俄ニ用意ニ下谷町人之者共ニ上野山内賊兵殺誅ニ付銘々相ニ得ニ拠ニ遂ニ一ニ所ニ彰義隊之者ハ没ニ取ニ捕ニ候ニ不ニ及ニ討ニ果ニ候ニ通ニ大総督府ニ遂ニ通達ニ候ニ通ニ支ニ配ニ致ス人数

四ニ方ニ徴ニ兵ニ出ニ張ニ致ス処ニ又ニ々ニ賊ニ兵ニ不ニ残ニ様ニ手ニ配ニ致ス為ニ市ニ中ニ巡ニ邏ニ致ス人ニ数ニ有ニ之ニ候ニ間ニ其ニ心ニ得ニ可ニ致ニ候ニ事ニ

一ニ彰義隊之者ニ於ニ上野ニ戦ニ敗ニ之ニ後ニ市ニ中ニ潜ニ伏ニ致ス事ニ務ニ多ニ候ニ間ニ市ニ中ニ倍ニ清ニ意ニ勤ニ改ニ之ニ有ニ之ニ候ニ又ニ者ニ市ニ中ニ為ニ致ス事ニ務ニ多ニ候ニ間ニ其ニ心ニ得ニ可ニ致ニ候ニ事ニ

一ニ彰義隊之者ニ於ニ上野ニ戦ニ敗ニ之ニ後ニ市ニ中ニ潜ニ伏ニ致ス事ニ務ニ多ニ候ニ間ニ市ニ中ニ倍ニ清ニ意ニ勤ニ改ニ之ニ有ニ之ニ候ニ又ニ者ニ市ニ中ニ為ニ致ス事ニ務ニ多ニ候ニ間ニ其ニ心ニ得ニ可ニ致ニ候ニ事ニ

（十八日附ニ文言今十七日ニ改ニ定ニ二日ニ付ニ紋長文ニ付ニ十八日ニ修ニ候ニ様ニ致ニ候ニ事ニ）

（十七日ニ市ニ中ニ為ニ致ス事ニ務ニ多ニ候ニ間ニ其ニ心ニ得ニ可ニ致ニ候ニ事ニ）

（十）在江戸横田数馬上執政大総督府参謀ニ書 政辰 五月廿二日

一筒ニ条上件ニ追ニ甚暑ニ之候ニ処ニ益ニ家ニ事務ニ多ニ忙ニ之中倍ニ清意ニ勤改ニ之候ニ実ニ賀上ニ無ニ有越ニ別表ニ之ニ人数ニ彰義隊ニ之ニ者ニ毎度大勝利ニ之則 御英名天下ニ輝キ大慶ニ之義ニ存ニ候ニ処ニ昨日ニ之ニ戦ニ敗ニ之ニ後ニ一挙ニ之ニ御ニ手ニ上ニ容ニ申談ニ置ニ候ニ通ニ上野一件別紙ニ之通ニ決ニ定ニ致ニ候ニ間ニ御ニ安ニ意ニ被ニ成ニ下ニ度ニ候ニ尤ニ表ニ之ニ仕向ニ之義ニ ニ不ニ拘ニ一挙ニ之ニ節ニ者ニ不ニ残ニ様ニ手ニ配ニ致ニ候ニ間ニ其ニ心ニ得ニ可ニ致ニ候ニ事ニ

一ニ大総督ニ之ニ御ニ処ニ置ニ之義ニ ニ ニ

急速之事故十分之手配等之義隊之者ハ田連ル屆兼其四山内当番詰合之外就レ夫ニ宅、
罷越ノ様子近ク者ハ駈付遠之者ハ洞ニ会集ノ事、山内ニ罷在ル人數二千五百人余之内ニハ得共
雨夜共々ニ配ル屆兼ル、官軍速ニ撃入ル有之間布ル心得賊情油斷之無ク十日晩七時過
ル速ニ大總督府之軍議之通諸道之総督方々ヨリ一齊ニ人數繰出シ四方ヨリ攻メ寄
筈ニ付々々右之通リ觸ル有之ニ付テハ官軍ハ勿論賊ニ於テモ決死之覺悟ヲ以テ不
浮足ニ長州ノ薩州一先引上ヲヤ出ル来薩ニ、中々不
必死之覺悟ヲ極メ苦戦黒門ニ於ル數之内大合戦之所ニ鍋島勢駈来ノ鍋之向ノ横手ヲ登
リ大苦戦ニ横手ヨリ廻ル薩州人數黒門ニ向右之方ノ一番ニ先登諸手一齊ニ討入賊散々ニ敗
北因州勢モ黒門之方一番乗ル人數持場ヲ何モ戦ひ得共者略ス賊兵ハ林中之
諸方ニ引上堤伏官賊ヨリ大小砲ヲ発撃ひ山内ヨリ焼ケル戦ひヲ烈シキ事筆上ニ尽シ難シ此戦ヲ古今未曾
有之大戦ニ御座ル所官軍十五分之大勝利賊兵ヲ不残谷中之方ニ追落行ク方ヘ追撃官軍ノ為之義ヲ誠以莫大
定官兵ヲ山内ニ可残ハ残リ可進ヲ進之謀ニテ賊落行ク方ヘ追撃官軍ノ為之義ヲ誠以莫大
之品ニテ大小銃ハ勿論其他諸道具カ槍之類多量ニ有之戦争ヲ中ニ義ヲ枕ス変ニ早朝數馬ニ乗シ
所ニ藤盛物ヲ通シ有之ル尚又出直シ一變動有総督方ニハ残ル事
相始ル夫ヨリ野山内ニ有候根村総出ニ牧野良子一同ニ残実見細川人數吉祥院ヨリ進
ミ来賊ヲ大佛堂辺ニ潜伏ヲ見、吉祥院ヨリ大通ヲ相始ル此時別当ヲ焼払其烟吉祥院
之方ニ南風ニ吹キ靡キ賊烟下ニ官軍ヲ乱上因州新手ノ人數ヲ繰込居リ候ヲ時ハ八時ハ
ト頃御本堂ヲ其他山内一圓之戦争大小銃之発声天地ヲ震動ス市中ハ放火盛山内ヨリ一所ヘ
火ヲ相見ヱ吉祥院ノ本堂ヨリハ其後ヨリ有之右実見三人引取ル時ヲヤヽ暫ク座ハ然レ慶
山内ニ見ヲ参ル様ヲ三枚橋ヲ西郷吉之助ヲ高名ヲ致シ軍礼ヲ述終リテ戦争之様子

一　薩州勢ヲ手負討死シ隙ヲ有之ヲ
一　長州ヲ苦戦ニ陥入浮兵一人討死ヲ事
一　有馬ヲ討死手負多ク有之道ニ逢ヒ討死四五人見請ケ大谷小路ニテ一
一　鍋島ニ一ノ鍋向横撃ヲ殊之外苦戦ニ而手負多ク有之ヲ
一　因州ニ黒門先登ヲ大苦戦之処格別之討死ヲ多ク有之ヲ
一　藤堂勢ヲ上野裏手ヲ討入大苦戦之一ト格別討死手負多ク
一　諸家之手負討死ヲ何ヲモ申ス事ハ不及
一　官軍ヲ捕ヲ品莫太何程ヲ枚挙申上兼一ト口ニ申セハ山内ヲ取右之御詞察奉願候

一　同日東枕ニ七ツ時過ル頃賊ヲ希三十人計トヲ引率紀州人数楯場ヲ及一戦賊ハ敗北
元来ハ方ヲ処去ル三人討取一人楯ヲ杭ニ梟首ハ事
一　十二日上野山内見物ニ参ル処山内等ヲ乱入賊芝ヲ手倒
有之山内不残焼果残ル方ヲ大仏裏薬師堂東照宮御霊屋其他坊中ハサラ
リトモ賊兵谷中三河島辺ヲ所々落行ル者ヲ谷中宮中ニテ手配ハ見合セ置ル
子惟中ニ有之事谷中宮中ニテモ申ス事ニ候賊ハ度ヲ失ヒ候者故毎度敗北
王子ヲ熱田人数持場ヲ残賊処ニ来ル討取ル七人樹ニ梟首有之ル処牧野寛見
一　十六十七日ヲ山内見物ヲ入ル者十八日ヲ大總督府被命ヲ一人ヲ入ル事出来ル
黒門ニ因州人数固メ居リ厳重ニ改メ
一　浅草見付橋南側ニ有之役ヲ捕盗白金太郎山田平次郎紙之下ヲ札彰義隊ニ有
常ニ横道ニテ天誅ヲ有之略ス

一 諸見附キメ切一人ヅヽ相改帯刀ス者、大總督府之印鑑ヲ請テ通行出来候事ハ格別之事

一 十二日昼後氷川多賀上総介一件ニ付テハ不審之義ヲ以桜田九郎兵衛隊撰出シ多加賀屋布ヲ數名及砲発ス此屋布内ニテ家ヲ多ク焼ケ人不居合ニ付其儘ニ致置又々刻官軍押来多賀屋布ヲ致放火ス尓屋布ヲ以テ防戦ス格別之事ハ無之

一 十二日残賊芝高久斗甲府之方ヘ落行ク旨ヲ以連日之陣雨ヲ川々留ル者ハ一二箇隆心終ニハ。

尓召捕ニ相成ル事ヲ甲府ヲヲ中山候ヲ家ヲ者有之甚気遣ニ義ヲ多人ヲ弥ヲ

ヲ節ハ取ニ付ヲシ一ヲ者ニハ

同夜時頃築地三之橋多賀兵庫ハ不審之義有之ヲ以人數其他之兵隊ヲ相見押寄屋布内外

有国及砲発ス家内ヲヲ不残ヲ人ヲ切殺薩家増山侯之屋布ヲヲ却テ怪家有之故ニヲ多数

引立ヲヲ相成ル

一 十七日本郷ハ弓町木切坂ハ旗本之屋布ニ潜伏近藤某始彰義隊之頭取之者共数ヲ所官軍押来及

戦ヲ家右十人之者更ヲ被ヲ出来候ニ付十人斗ヲ相成ヲ諸之通攻ヲ候戦ヲ勝ヲ之類官軍

十人数ヲ被ヲ討ヲシ大勝利

一 十八日昼時湊橋通ヲ箱崎二丁目久世侯中屋敷関宿之城主内父子勤王佐幕之論ニヲ家中

混雑ハヲ主ヲ彰義隊ヲハ越此度山内ヲ大苦戦右ヲ同侯屋布ヘ押込ヲ砲発ス家屋敷内空ヲ

久世侯ヲ西日夜中ヲ家来一同山内ヘ脱ケハ十五日谷中門之方ヲ大苦戦之由ニ有之

一 神田ハ門見付外三河町ヲ得神之旗下羽織袴ヲ通行ハ候之下ニ草鞋ヲ脚ヲ者ヲ官軍

迎之者ヲヲ見処ヲ全彰義隊之者ヲ如何ヲ申ハヲ半ヲ来兼而抜刀斬首右ハヲ類多ヲ有之

十八日高橋ヲ近之ハ、彰義隊三十三四人ヲヲ召捕、抜刀斬首之者有之久保町代地ヲ召捕ハ相成リ

断然ヲ逢ハ有之ヲ諸道ヲ召捕之ヲヲ致ハ候ハ、勾論之事ヲ市中巡邏

ヲ尚一際厳重市中ヲ不絶ヲ三四十ヲ高壱ヲ見合戸ヲ切甚人気不穏ヲ座

一　右筋之中多ハ通行之方ハ何分向是実ニ諭旨ニ基ク徴募府向之ものニ候ヘ共
飯山城攻撃頃ハ我後地攻之次第故之義ニ格別之事共ニ候ハヽ

一　大橋ハ前段二ツ梟首

一　今ハ橋ニ居師何ニ幸民彰義隊ニ組ニ云ヘ分梟首

一　王子ニ首級ハ二ツ同断

一　大名ニ不審之家ニテ官軍直接撃討ニ相当ル降家柄ニ候ヘ共不審ニ付伸向ル相当之ヲ以
汁ハ水野ニ等ニ同所紀州侯ニ戸詰ニ之何ニ依ニ幕之論ニ付度ニ国許之出兵ニ不相成其上
屋敷ニ可相当取之論ニ付大ニ数梟ル

一　野州今市ニ於ハ会兵百五十人計工箱ニ手ニ討取世ニ会兵ニ当白川辺之残賊ニ付ニ
同断候ニ而ハ何ニ

五月十八日

数嶌

駿河国府中城之ニ　徳川慶之助

但駿河ニ一条ニ而遠江陸奥ニ而ハ何ニ

一　橋大納言

自今諸侯ニ列ニ加ル事

田安中納言

右同文

徳川泰之助

今般寄寓ニ付

作州ニ而ハ何ニ

一　橋大納言

今般御軍兵を列し給ひ御礼等の為御登城の

右同文

一 徳川家康公筆自今支倉与次郎等止ル
五月六日
同二十石以上 王直ら 此條日誌不見
当部

(一)

十九日廿日ニ江林富ヲ呼ス下野ヲ兵小田原ヘ攻入ル
ヘキ仍テ相ノ不ヲ一ニ言ス因テ備前侯伊州并米倉人数差出シ義右ヨリ
兵今明日ニ可取ニ取詰ル一ノ手成ル又今朝伊州
三四少隊 砂高ヲ持

甲斐細工

太政官日誌三十ヶ所出

(二)

十四日

一 撰兵衛次

一 勢 秋

一 鞆

一 学

小田原城ニ頼置ル子孫ニ厳重ニ可ヲ令ス
後ニ先鋒無怠ヲ甲斐城ニ頼置ル子孫ニ厳重ニ可ヲ令ス
没ス依テ去月六日ニ元徳川亀ヲ助ケ甲斐城ニ頼置ル子孫ニ厳重ニ可ヲ令ス
小田原辺ヲ追ヒ甲斐ヲ以テ甲州徘徊ヲ以テ一切厳締不致ヲ令ス
ヒ甲斐国ヲ通ル(共)ヲ以テ甲斐ヲ通ル(猥)ヲ以テ甲斐ヲ通ル(猥)ヲ以テ甲斐ヲ通ル(猥

形蹟全く於無相違甚多(以下)聞事ゆえ取紛れ
うち希之人数急上京之段 御沙汰
(三)
甲斐表鎮撫使ら 仰出
(四)在江戸河々多喜人寄池村猶三郎書 戌辰五月廿六日
二十八日
布施川助宮(江戸鎮台)関東探題ら転任被 仰出
一 橋本殿(神)同新副被 仰出 但し寺社兼帯
一 西御丸表ニ永く御住居之由世上ニて風説之事
廿四日青梅(不)生子ら大敗争官軍大勝利ニて生子賊放火いたし退散之
一 小田原廿二三日頃より戦争官軍甚不勝利之ニて
ニ而死し尚又今日藤堂人数西丸通行之砌見請候所三両挺大砲五門探出し加藤脇物之話ニ
今日頃ハ大合戦ニ而事未タ不浮確報ハ中事
一 青梅生子之敗兵ハ総而方之方ニ逃去ル中ニ而表ニ
て西死し大温報之
一 徳川ニ禄高七拾万石是ハ全く之墓所入ニて旗下二千
二千石以下ハ蔵米ニ徳川家臣ニ 仰出ニ而
へき二百万石以上之由随分寛典之ニ所置ニ有之加藤内話之
廿日ニ
池村昌兄ら下
多喜人

（八紅）紀事

一 桜題宮江戸御承往ノ分 諸藩ヘ依四条覧三ケ年一度宛日誌 差登ノ儀ヲ

一 甲斐ノ諸藩ニ小隊中津一小隊杉代一小隊小田原 各信ト心ヲ協和辺ニ七拾人ノ余ヲ致守衛

ヲ落之ノ外タルヲ

一 小田原ヲハ四条ノ総論ヲ服シ降参ヲ許ス旨ヲ告ケ 一銭ヲ不奪様ヲ為サンヲ云ヲ以テ ○第相山ヘ大ニ攻

ンヲ云官軍ノ所為ノ賊ノ所為ヲ

（二）在江戸横田某書牧

西道ヲ経由府ヘ報知ヲ以御帰京ノ御人数中ヲ路ノ

（御実戦ノ相成リ賊ハ山岳ニ）

義ヲ三発ヒヲ前ノ例御御潰ヲ上ケ上ノ時ヲ度ヲ

（陣中ヲ小田原侯戦ヒ）

頃鎗軍中井範部外ヲ人ヲ官遣ノ

軍一時ニ大挙シテ押向ヘ来ル東海道ヲ方ノ藩ノ人数江戸表ヘ指遣ノ兵ト ヲ為ス

敗レタヲ又賊ヲ方ヲ要路ヲ御潰ト中ヲ隊ヲ名家ニ

道ヲ塞ル義ヲハヲ同ヲ当ラ収ノ事無ヲ注ヲ別紙ノ行智者ヲ官ヲ名ヲ

（注）通事上ノ誤字

五月九日

別紙 五月二十日 江城日誌十一出

江戸府鎮臺

同 補

大徳叔日宮

松ノ丈ヶ ヶ将

大原前侍従

西四辻大夫

新田三郎

判事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

同判事被　仰付事

東海道先鋒総督ゟ　免官事

東山道総督ゟ　免奥羽征討白川口総督ゟ　仮

東京副総督ゟ　免奥羽白川口副総督ゟ　仮

大総督府参謀ゟ　仮

但錦旗等ハ可返上事

小松帯刀　唯八

江藤新平

土方太一郎

板垣退助

山名倉大夫

山名倉八千丸

秋波三位

河田左久馬

渡辺清左衛門

吉村右兵衛

前書ト不合ニ付訂正

大総督府

下参謀

七月十日

右之通ゟ　仮

参謀

木梨精一郎

東海道先鋒総督ニ　免

別紙之通ニ　仮

東京府知事ニ　免

別紙之通ニ　仮

東京府権知事

山名倉大夫

東山道先鋒総督ニ　免

別紙之通ニ　仮

板垣退助

大総督府参謀ニ　仮

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

右陣中下参謀一の子補助ヲ命ス

五月六九日

別紙ヲ以テ 作戦ヲ命ス

五月六九

右ノ通リ奉承候也

参謀長

大将 侍従

陸軍少将 下参謀

大将 侍従

略ス先ツ般沼津侯ヲ助ケ下脱走ノ者共ヲ討チ二ノ宮ヲ経テ小田原ニ於テ入途ヲ扼シ和成ヲ挫キ其三人ヲ外多クノ兵ヲ捕ヘ和成ノ故速ニ賊徒ヲ砲撃シ小田原諸士ヲ助ケ賊徒ヲ一味仕ル者アラバ右ノ官軍ニ対シ発砲故意ニ戦ヲ挑ミ勝利ヲ退テ節度ヲ守ル者ハ千死モ顧ミス敵ヲ不得テ後ノ手成ト我ヲ待ツ有ラバ柳原ヲ以テ斬ル者ハ一人ニ至ル迄一ツ残ラス先ツ和睦退去ヲ張ラルル者ハ勿論ノ事ニ候也

一六月十日 侯添河狭守殿 甲斐七三
一寺内一添七田舎ニ蟄居
(八) 五月廿二日 江戸詰ニテ十一通 彩出

大久保加賀守同罪之節為御届出張ニ付
先般林昌之助以下之賊徒為鎮圧軍遣ニ
為一郎ヲ追返ニ少ク其罪顕然不可免候間
五月

遠田為軍鋭沼津へ行ニ付留守中和田義ヲ助
考ニ而於田和及殺害ニ始末兼々及賊林昌之助ニ外木更津脱走之者ニ預置

井上甲ニ近

穂波三〃位

大久保加賀守

因州 中井紀伊守ヲ殺害ニ付 佐土原 ニ而

依之向罪家師ニ及ニ向ニ事

水野出羽守

業其取締ニ不改剰ニ軍艦ヲ和田義ヲ助ニ
対 天朝ニ於ニ極秘ニ而ニ遠ニ帰邑ニ
府ニ至ニ下向ニ兵隊ニ一ニ出ニ

小田原藩邸ニ召上

ニ人大久保加賀守改及遠ニ江戸屋布ニ
数一ニ裏罪科ニ不格別ニ以 御寛度ニ
一ニ一ト 五月廿七日

(九) 或云山崎阜馬書状ニ

先般黒駒宿ニ参ニ而ニ税ニ受沼津ニ
赴去和根宿辺ニ参ニ而ニ井上様ニ
時方様ニ御人数ニ御江府ニ
賊ニ我ニ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一金百両　甲斐　町名配
一日十五両　二号
一　〃　〃
町名配中

一金百十両　寺社係轄　一
一日十五両　附届　〃
今般月行役ゟ之通ゟ下賜ニ而当六月分御扶持米
出ゟ御借有ゟ御名前之写迄当月廿日ゟ計方ゟ届ゟ
七ツ半

寺社係轄中

一金四拾両　水防方配　一
金四拾両　〃計方

一金百両　甲斐　町名配　一
一日十五両　二号　〃
〃

一金弐拾五両　二号　附届　壱人
一日拾両　三号　日新

一金百十両　寺社係轄　一
一日十五両　附届　〃
今般月行役ゟ之通ゟ下賜ニ而当六月分御扶持米
出ゟ御借有ゟ御名前之写迄当月廿日ゟ計方ゟ届ゟ
七ツ半

寺社係轄中

一金四拾両　水防方配　一
金四拾両　〃計方

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

水野出羽守

一人 金百両 増御加増之事

一金百両 代友

一金拾両 二通 改筆

右追而御加増可被仰渡候間、此段為心得申渡候事

五月廿八日

代友申

成瀬隼人正家来

二十五両 油沼龍助

十五両 宮原柔兵衛

一 金百両 一通 改筆 人宛

一金拾両 二通 改筆

右追而御加増可被仰渡候間、此段為心得申渡候事

五月廿八日

代友申

兼而及聞候林昌之助儀、類被預置候処、逐電、職速を以対官軍梗命猖獗、実に不届至極に候、軍監和田藤之助、参謀暗殺に及候儀、不都合に候、速に召捕、厳重に可申付候、尤同人に与力同心等有之候はゞ、是又召捕、厳重に可申付候、若又他領へ立退候はゞ、其領主へ掛合、速に可差出候、万一隠匿いたし候はゞ、其領主へ可申付候、此段為心得申渡候事

五月廿八日

水野出羽守

白河城代被免候事

五月

水野出羽守

鎮撫府

小田原藩某八今般遊撃隊并村田氏徒衆相招
中井源五郎おおの西条及殺害ニ及不審ニ付手当ニ
并兵隊長刎ニ藩伊勢国刎藩士屋敷
五月ニ八ノ

（九二）

六月朔日

急便状到ル尾張刎藩ノ手紙明二日巳ノ刻御城ニ
但為警衛ニ仰付候藩ニ藩兵隊来ル後ニ
鎮撫府参謀
参謀刎藩 中津藩 松代藩 浜川藩 桑名藩 高須藩
御城三ヶ所御門警衛兵士人ヲ左ノ通
山ノ手御門 御城内 参謀刎
御本丸御門 濱松
郭内外巡邏左ノ通
堅固ニ毎通ノ東 参謀刎 尾張町通ノ
新橋堺町通ノ 高須 郭内
左ノ通割相巡邏ノ方ニ急務ニ
鎮撫府
参謀
濱松
松代

参謀刎藩ノ士ノ来ル

六月三日

其藩士ノ人ニテ鎮撫府ニ毎夜警衛ノ為
鎮撫府
参謀

当家等之後ゟ遠国等頭ゟ之条目退散後ハ万事
一ツ井石見守ゟ沙汰有之筈ニ

六月七日

松代長吉申

其後兵隊之向等表政府ゟ呼ニ参ル者ニ而左之人ニ而座次後ゟ着ニ而ハ無之

松代藩
松代藩
鎮撫府
参謀
松代長吉申

(九四) 在甲府依賢生六月十日発書 十九日達

先頃當地黒駒ヨリ退去之賊徒相州箱根辺ゟ去月廿九日頃ヨリ北集致ル有甲府ヨリ為追討出兵候ニ付小隊数ヲ謀伏谷又ハ三ツ沢老臣 御家一少詠寺内小子ゟ一同死ニ致ル廿七日當地撰出シ箱根近辺迄出張ル処熟ト逃去ル由右故早速引揚ニ而成丈ケ甲武田家浪士砲術稽業之ヲ 副ル役智ヨリ御家ニ而仕セ之成丈ケ甲府ニ於甲武所ニ教練致ル仕六七十人程宛ヲ朝夕暴ヒト少ヲ之名ニ出席

(九五) 五月下旬江戸物價

両替銭ハ下ル方両替銭拾八貫文位天保當百銭ハ文久涛銭多ニ而成丈慶應一大ヲ

四百五拾文位ゟ五百文位ニ至ル葱一本 拾弐文位 米両方ニ而三貫文位ゟ油一合ニ付弐ヲ弐

而又後 衣服古着抔ヲ存外下直ノ由唐糸織ノ布ヲ及試用ノ天象ト申ス一

(九六)

六月六日早暁甲府ヨリ注進ノ村前田角次郎早追ヲ着ス其ノ趣ハ第ノ方ヨリ南矢ト云者二人甲府ヘ差出ス様ニ命置候処尚此度ヲ一人ヲ宮河早ノ一ノ差出ヲ申ス由

同日晝前島友ヲ進早追ヲ以上京

(加藤奥術ヲ以テ金札ヲ偽ル云)

於甲府春原織左門民事奉行領袖宮澤德左衛門締有領袖從役賀斉ヲ命ス

(九七)

大垣藩ヨリ御達ヲ寫

當春以来諸方ヨリ出兵多ク數徴發不憚難艱勇戰奮闘 王事ニ勤勞ノ段武門ヲ覺悟不過之 叡感不斜ヲ以此度領内洪水ノ外ヲ用意ヲ玄漢国力ヲ迫撃ヲ加ヘ候ニ付テハ深ク条ヲ奉ヲ 君命ノ依之一時ヲ急危御救助之為別段ヲ以ヲ御ヲ元ヲ金一万五千両下賜ヲ

六月十九日

(九八)

(此ハ達未得其大意ヲ)

市川陣屋管轄郷村代官ヲ付ヲ

百人扶持ヲ宛行ヲ

右ハ修ヲ大吉甲斐ヲ武田ノ末ヲ一等ヲ旧臣等奉ヲ公儀ヲ御ヲ尋ノ及ヒ候ハヽ許容重享

成澤勘左衛門

皆白らるゝさうらふの事本藩の事辛りふうまを納ひえうる事ゆえひ新
例に倣ふべしと予州管轄八万石外ふ国けつをの動ぶこれしいろ行ろうと成ゆ代幸
慶応

今般更始　御一新ゆ際御洗脱そ　御趣意ふ基興論を採て　御朝裁被
仰出ゆ旨を以兼ろ御布令ごとく有ゆ一紛挙知ごとく就ては縣郡村里ご事件裁断
近ゆ各　御趣意縦述奉詔して下民ら推廣可致ご勿論ふ三ヶ所ゆ代友下吏
近ゆ一枠今局之意を任し同心協力去私情ふ公議萬備一途施及
山林勤可致旨　鎮撫府　御用ゆ達ふ事
右ごゆ趣ふ心向ゆ事私情を去ふ公議ゆ着眼して励勤
可有ふらるゝ様ごゆ事

鎮撫参謀
参謀印

五月十四日

松代藩
宮沢儒太郎

五月十四日

御沙汰ふ付ふ
鎮撫参謀
参謀印

五月十四日

一七月十四日或勘氏附属之事ふ付ふ諸藩ゆ
其侭ふ後ゆ事ふ付て改ふ命ふるうとふ
(ろ)
當時甲府ゆ一所各ふ藩人数事

一　兵隊弐百五十人　　彦根藩
支　弐百二十人

一　同　百七十弐人　　淀松藩
い　四十八人

兵隊百七十六人
支　三十弐人　　御藩
一　同　百弐拾九人　　日向
拾三人　　延岡

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 石人 作左 大溜湯 同 支
小者拾七人 ニ子八人 遠州 掛川
一 同 弐千人 同向 鉄砲 一 同
いい 十七人 ニ子九人
一 同 百十三人 作左 今 次
一 いい 弐拾七人 中津湯 〃 兵隊子前名字七人
右七月廿四日調 〃 夫 ニ子七人

恵在甲窪田小次郎家蔵書 六月廿八日

甲府三分縣令之内

甲府陣屋 拾万石位高 濱松之藩 赤松孫右衛門
市川陣屋 九万石位高 松代藩 戒澤勘右衛門
石和陣屋 七八万石位 小島藩 石田寺人

徳川家ゟ被仰渡候家来之内別家

以後毎月給高多少不限弐千石ゟ弐千五百石迄之者ハ
弐拾石ゟ弐百石迄之者ハ

一 四幕府ゟ出世順次ハ石和ゟ市川支ゟ甲府ゟ名
一 徳川家ゟ被仰渡候家来多ゟ枝助出来候ハヽ甲府ゟ
伺候猶又甲府ゟ引返し相成候ハヽ追ゝ番物ゟ

欧ハ草莽ノ士多ク屢〻気ヲ吐キ知ラ

参謀　宇和島　林　玖十郎　助

寺社後藤　御直人　稲次内含人

附属　濱松　松平兵之丞　町方差配

参謀附属　肥後　佐々直次郎

宇和嶋　野口一郎　今計方

附属　杜地　杜葉幸三郎

松代　原田兵之丞

尾州　山田梅三郎　国中民事
締方調ヲ

宇永彼岸ノ

濱松　伏谷又兵衛　水防差配

加州　林　喜左衛門

濱松　名倉予何人

濱松　秋田あ太郎

藝州　小谷恵助

地　岡本廉助

地　土屋良平

小島　路次伴六

濱松　屋代太一左衛

書記　翁　布告ヲ　市村貞吉

護衛隊差配宇和島　藤井兵之助

護衛隊御用達役　地　鶴　茂兵衛　筆記

地　山右小予　城中ヲ受鍵預　松代　手塚与兵衛

松代　手塚与兵衛

一　御家兵隊ヲ始四人路次名使ニ附属ス　作州松平

一　右役名ヲ改府ニ於テ被ル属ス後詰ヲ

関連ス後ル一ツ石ヲ下ル方ヲ

一　名倉予ハ集ニ唐ニ三度計歌選巴渕ヲ

ニセ一ツ半下

一　右ハ隊ヲ離レ兵ニ仕ヘテヨリ永ク一ツ半下

濱松　相馬中ゑ

加州　芳矢栄之助

地　手塚与兵衛

松代　寿原徹右ヱ門

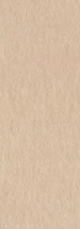
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 旧藩隊より市府之勤番之者勤 王之儀ニ付
旧ノ如仕付
一 成瀬君之明日之例ニ七ツ之砲
一 当国ニ変事之地故あらんため警備之為
旧ノ大洲ヨリ数隊之撰抜始終滞留大仙ヨリ及援多く義勇
誇り者ニあらず飽迄銃隊ニ演知之上ニあらざれば義勇誇り
ニ不至
一 参謀ハ川給三百石ニ而之由

季夏廿八日 認置

上野原 都留郡 相州口



右之通原関門警衛出張之護衛砲隊五人銃隊隊十人其許ヨリ張中差遣候
仰付候間諸事取締向厳重ニ可被致候旨

七月十七日

御用状之事
鎮撫府

松代藩
関口寺衛

護衛砲隊差図役 両名 村木中司 砲隊
○前文護衛砲隊差図役護衛砲隊之者
銃隊ハ与力同心之者
諸家持口之配置
追而山自都市門之
納屋町 御免
御用

松代

勝沼上ヶ原宿　御免
飯能　八王子ヶ
上ノ原　川浦　鰍澤
吹寄宿　山中　古宮
奥山今ノ外ヶ一人ヶ様ヶ御預ケ
御手當ヶ茶屋ヶ門
裏宿ヶ　石和宿

桃川
駄馬
檀那

勝沼上ヶ原宿
飯能八王子共
武州
川浦山梨郡武州ヨリ
鰍沢巨摩郡
山中都留郡駿州
古宮八代郡ヨリ上
石和山梨郡

一鎮撫府門ヶ　仰ヶ事

但シ奥後ヶ字ヶ三人ヶ死為徒ヶ事

八月二日

一近頃當國ヶ盗賊横行ヶ及騒ヶ為ヶ旁ヶ相守ヶ百ヶ護國隊ヶ生ヶ
徒ヶ手當ヶ五両ヶ三人為ヶ差遣ヶ迅速ヶ行方ヶ為ヶ
八月ヶ日　鎮撫府

鎮撫府
參謀印

松代藩
長官印

仰ヶ付ヶ

護國隊

近頃當國盗賊横行徒ヶ暴行村ヶ及騒ヶ為ヶ旁ヶ相守ヶ百ヶ護國隊ヶ生ヶ
徒ヶ手當ヶ五両ヶ三人為ヶ差遣ヶ迅速ヶ行方ヶ為ヶ
八月ヶ日　鎮撫府

松代藩
長官印

仰ヶ付ヶ

護國隊

松本藩ヨリ出張
宮沢徳左衛門
松代藩ヨリ出張
松代藩

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一近頃私ニ兵卒ヲ設ケ浪士ヲ徒相集ヒ或ハ近辺ヲ徘徊シ甚タ民間ノ手妻ヲ業トシ相当ノ不埒ニ至リ以来右様ノ儀ヲ通シ者於有之ハ急度厚ク御咎メ之ヲ

八月六日

右城中引受諸頭ヘ仰付ラル鎮撫奉

一

右社寺掛ヘ仰付ラル鎮撫奉　御用部屋

寺田刑部

今日御免ニ成ル

在田松平銃頭家来ヨリ届ケ出ル

當五日朝ヨリ多人数ニテ屯集シ諸国浪士体ノ者共追々入込ミ候ニ付テハ不取敢取締ノ為メ出張イタシ候処右浪士共ノ内ニ徒党ヲ結ヒ強盗ヲ働キ候者共有之ニ付テハ捨置キ難ク候間即時ニ討取リ候ニ付此段御届ケ申上候

八月

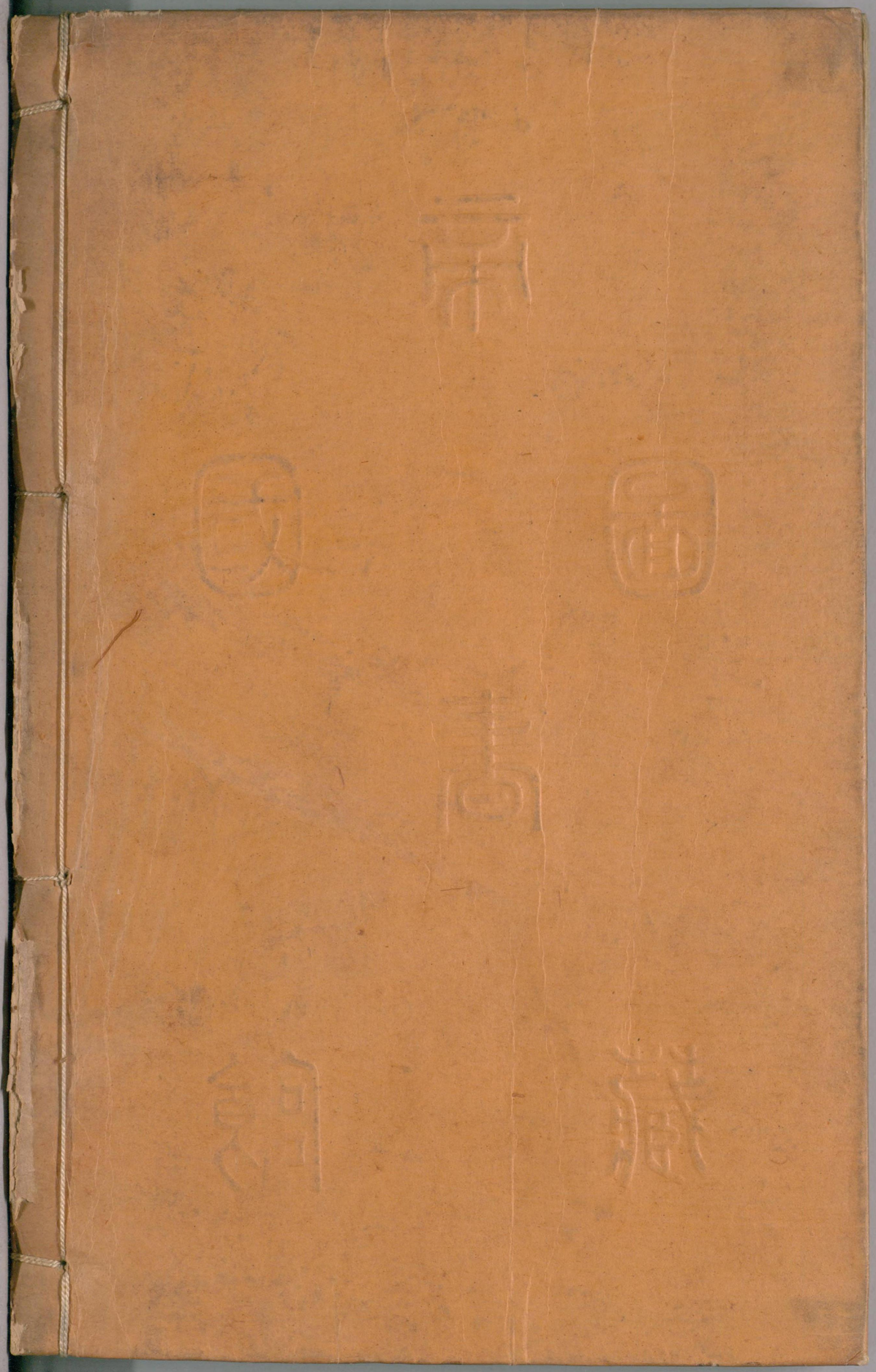
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用